

令和7年9月26日

令和6年度「国語に関する世論調査」の結果をお知らせします

文化庁では、国語施策の参考とするため、平成7年度から毎年度「国語に関する世論調査」を実施しています。この度、令和6年度に実施した結果がまとまりましたので、発表します。

1 調査の概要

調査目的：日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する。

調査対象：全国16歳以上の個人

調査時期：令和7年3月

調査方法：郵送法

回収結果：調査対象総数 6,000人
有効回収数（率） 3,498人（58.3%）

2 調査項目

- ① 言葉の使い方
- ② SNSとコミュニケーション
- ③ 敬語
- ④ 外来語の表記
- ⑤ 慣用句等の意味 など

3 添付資料

- 令和6年度「国語に関する世論調査」の結果の概要

<担当> 文化庁国語課

国語課長 山田 亜紀子（内線 2837）

主任国語調査官 武田 康宏（内線 3157）

国語調査官 町田 亙（内線 2842）

電話：03-5253-4111（代表）

03-6734-2840（直通）

令和6年度「国語に関する世論調査」の結果の概要

調査目的・方法等

調査主体：文化庁国語課（業務委託先：一般社団法人中央調査社）

調査目的：現在の社会状況の変化に伴う日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する。

調査時期：令和7（2025）年 1月14日～3月4日

調査対象：全国16歳以上の個人

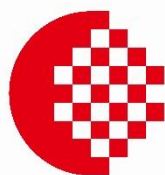
調査対象総数 6,000 人

有効回答数（率） 3,498 人 （ 58.3% ）

調査方法：郵送法

※ 令和2（2020）年度から郵送法で調査を実施している。令和元（2019）年度以前は面接聴取法で実施していた。

※ 調査方法の異なる令和元年度以前の調査結果は参考値となるため、比較には注意が必要である。



文化庁

備 考

- ・ 百分比は、各質問の回答者数を 100%として算出し、小数第 2 位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が 100%にならない場合がある。内訳とその小計においても同様である。
- ・ 百分比の差を示す「ポイント」については、小数第 1 位を四捨五入して示した。
- ・ 一つの質問に二つ以上の回答をすることができるもの（調査票で「○は幾つでも」、「○は三つまで」等と二つ以上の回答個数が可能である質問）では、回答率の合計が 100%を超えることがある。
- ・ 「付問」は、前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。
- ・ 「付問」の「質問」で「全体の○%」と示した数値は、今回調査の回答者全体を基準として、その問いの回答数の割合を算出したものである。
- ・ 図表等に「n=1,000」等と示されているのは、その問いの回答数の総数である。特に示されていない場合は今回調査全体の有効回答数となる。
- ・ 図表等で回答の割合を「-」と表示しているのは、回答者がいなかった場合である。「0.0」と表示してあるのは、回答者が 1 人以上いるが百分比の小数第 2 位を四捨五入した結果が「0.0」となったものである。
- ・ 各質問の冒頭で、（*P.10）等と示されたページ数は、本調査の報告書において、該当する質問が記載されているページである。

目 次

I 国語とコミュニケーションに関する意識

<問1>	言葉の使い方に対する意識	1
<問1付問>	どのように気を使っているか	2
<問2>	SNSを利用しているか	4
<問2付問1>	仲間内や一対一での、SNSのメッセージ送信等を行っているか	5
<問2付問2>	仲間内や一対一での、SNSのメッセージ送信等で感じる利点	6
<問2付問3>	仲間内や一対一での、SNSのメッセージ送信等で戸惑うこと	8
<問2付問4>	不特定多数に向けた、SNSのコメントや投稿等を行っているか	10
<問2付問5>	不特定多数に向けた、SNSのコメントや投稿等で感じる利点	11
<問2付問6>	不特定多数に向けた、SNSのコメントや投稿等で戸惑うこと	12
<問3>	SNSの普及による、社会における文字や語句、言葉の使い方への影響	13
<問3付問1>	SNSの普及が、社会で使われる文字や語句に及ぼす影響	15
<問3付問2>	SNSの普及が、社会における言葉の使い方に関与する影響	17
<問4>	SNSによるコミュニケーションの質を社会全体で高めていく上での課題	19
<問5>	SNSでのコミュニケーションの質を高めるために気を付けたいと思う点	21

II 敬語に関する意識

<問6>	敬語の必要性	23
<問6付問1>	敬語が必要だと思う理由	25
<問7>	配達の人に対して掛ける言葉	27
<問8>	会社で仕事後に掛ける言葉	29

III 外来語表記に関する意識

<問9>	外来語や外国語などのカタカナ語の使用に対する印象	32
<問9付問1>	外来語や外国語などのカタカナ語の使用が好ましいと感じる理由	34
<問9付問2>	外来語や外国語などのカタカナ語の使用が好ましくないと感じる理由	36
<問12>	外来語の表記	38

IV 言葉遣いに対する印象や慣用句等の理解

<問14>	使うことがある言葉か（「映（ば）える」「エモい」等）	46
<問15>	気になる言葉か（「映（ば）える」「エモい」等）	48
<問16>	どちらの意味だと思うか（「付かぬ事」「役不足」等）	50

I 国語とコミュニケーションに関する意識

* 報告書におけるページ数

<問1> 言葉の使い方に対する意識 (* p.3)

— 「気を使っている(計)」が約8割 —

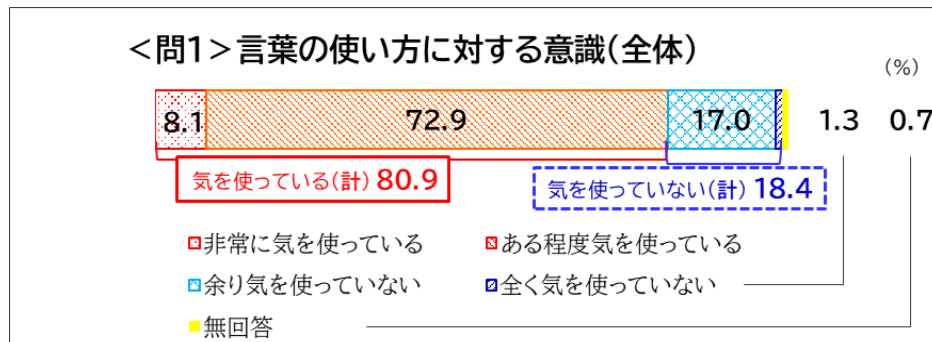
〔問1：質問〕

あなたは、ふだん、あなた自身の言葉の使い方について、どの程度気を使っていますか。(一つ回答)

〔問1：全体の結果、(参考)過去の調査結果〕

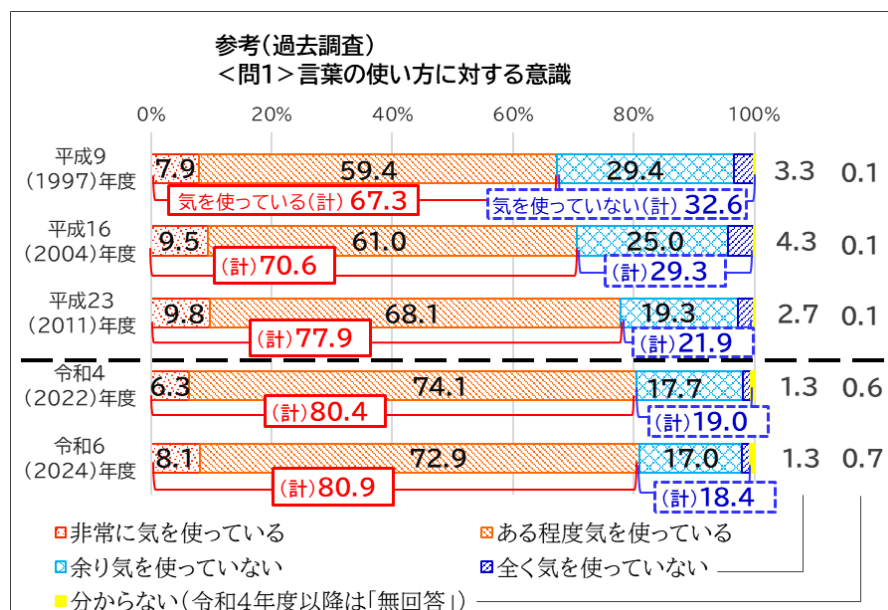
結果は次のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

「非常に気を使っている」を選択した人の割合が8.1%、「ある程度気を使っている」が72.9%で、この二つを合わせた「気を使っている(計)」は80.9%となっている。一方、「全く気を使っていない」は1.3%、「余り気を使っていない」は17.0%で、この二つを合わせた「気を使っていない(計)」は18.4%となっている。



また、調査方法が変わったため、令和元(2019)年度以前の調査結果については、今回(令和6年度)の調査結果との比較に注意が必要だが、過去の調査結果(平成9、16、23、令和4年度)を参考値として下のグラフに示す。

過去の調査結果においては、「気を使っている(計)」の割合が増加傾向にあったが、前回調査とは、ほぼ同様の傾向にある。



* 調査方法の変更のため、令和元(2019)年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。

<問1付問> どのように気を使っているか (* p.5)

— 「改まった場で、ふさわしい言葉遣いをする」が 8割台と最も高い—

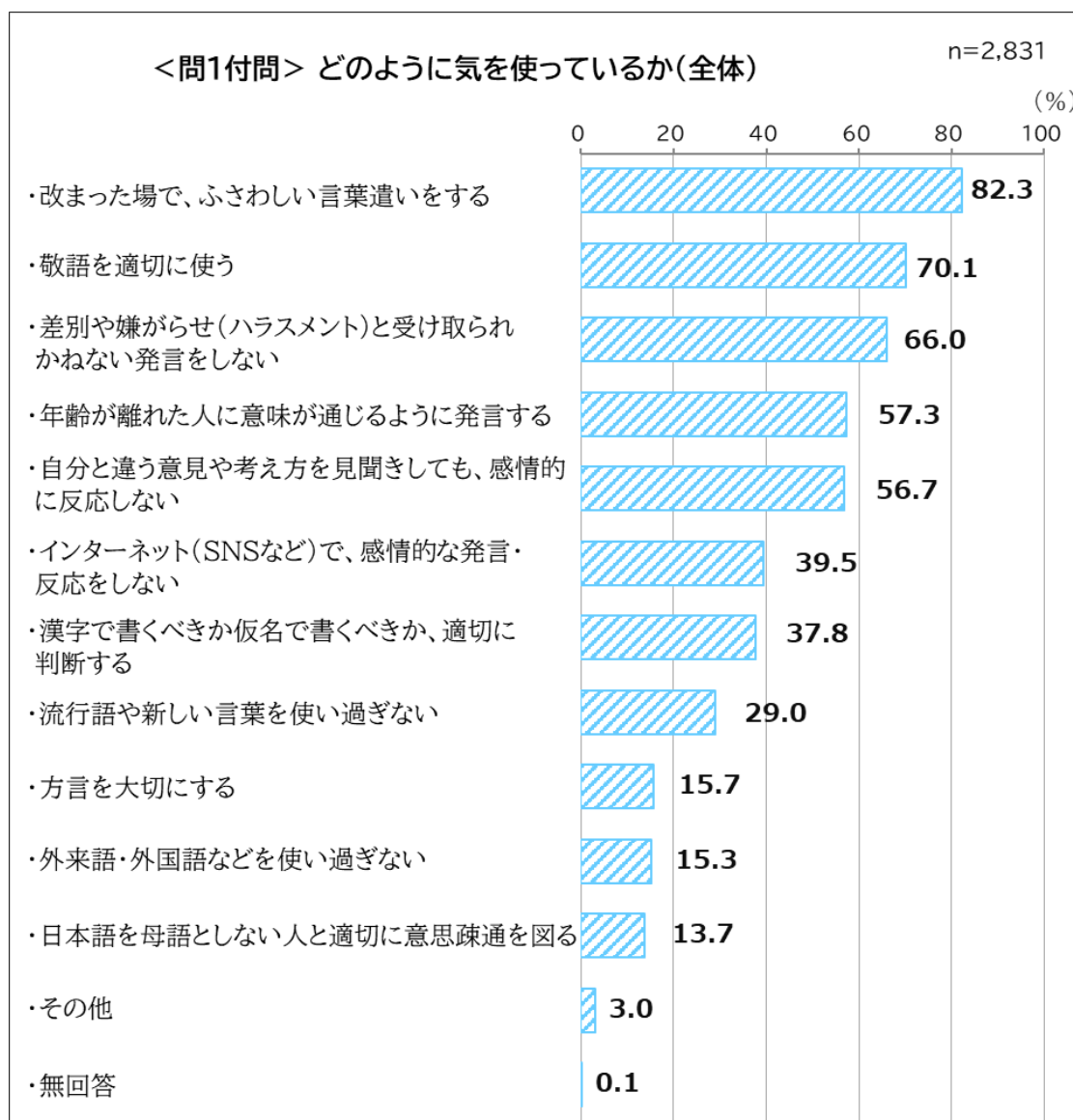
〔問1付問：質問〕

（問1で「非常に気を使っている」、「ある程度気を使っている」と答えた人（全体の 80.9%）に対して）
ふだん、どのように気を使っていますか。（幾つでも回答）

〔問1付問：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。（選択肢はグラフに示している。）

「改まった場で、ふさわしい言葉遣いをする」を選択した人の割合が他に比べて高く、82.3%となっている。次いで「敬語を適切に使う」（70.1%）が約7割、「差別や嫌がらせ（ハラスメント）と受け取られかねない発言をしない」（66.0%）が6割台、「年齢が離れた人に意味が通じるように発言する」（57.3%）、「自分と違う意見や考え方を見聞きしても、感情的に反応しない」（56.7%）が5割台となっている。



〔 問1 付問：年齢別の結果 〕

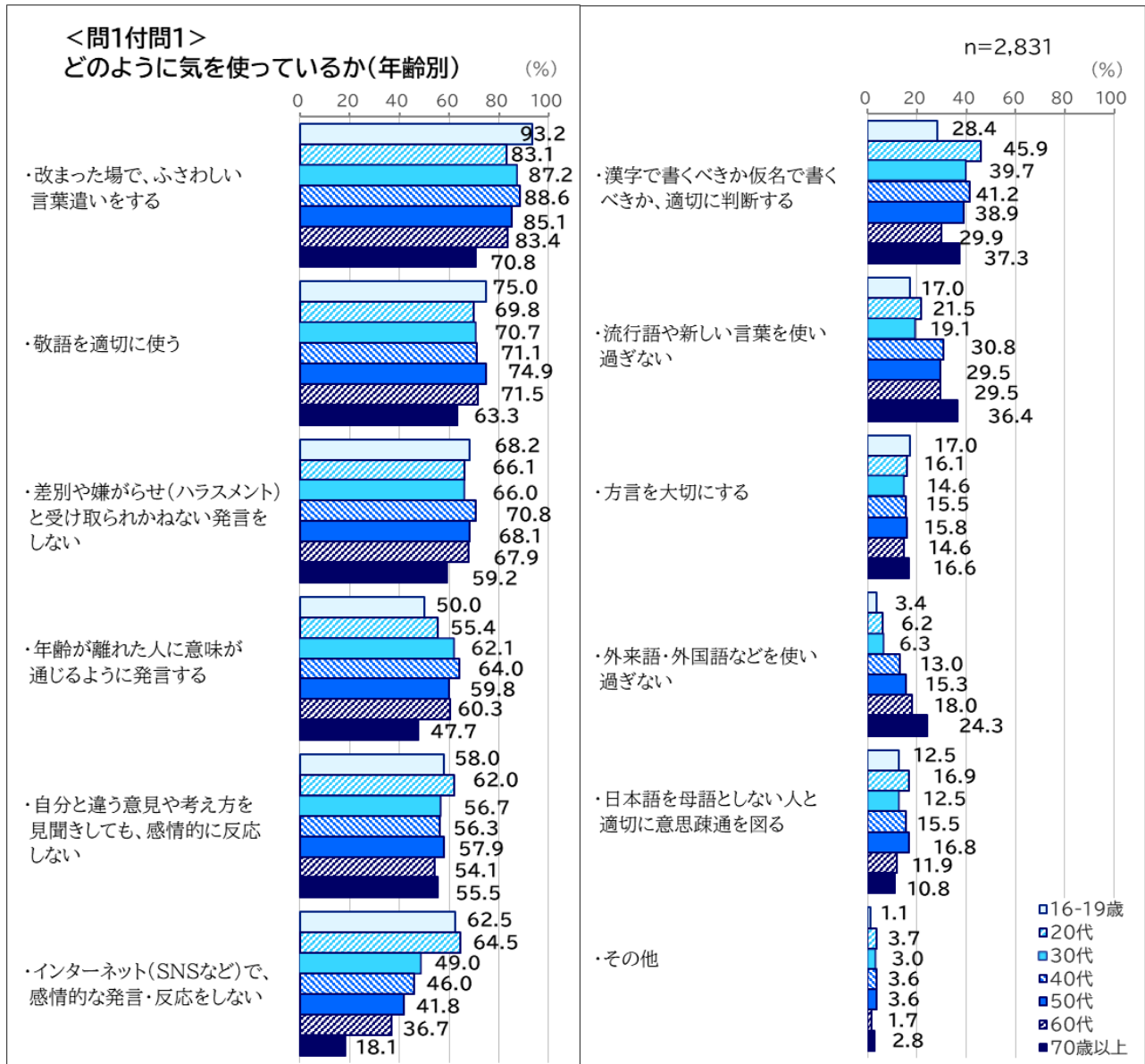
年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「改まった場で、ふさわしい言葉遣いをする」、「敬語を適切に使う」、「差別や嫌がらせ（ハラスメント）と受け取られかねない発言をしない」、「年齢が離れた人に意味が通じるように発言する」をそれぞれ選択した人の割合は、70歳以上で他の年齢層より低くなっている。

「インターネットで、感情的な発言・反応をしない」は年齢が上がるに従って割合が低くなる傾向にある。

「漢字で書くべきか仮名で書くべきか、適切に判断する」は、20代で他の年齢層より高くなっている。

「流行語や新しい言葉を使い過ぎない」、「外来語・外国語などを使い過ぎない」は、年齢が上がるに従って割合が高くなる傾向にある。



<問2> SNSを利用しているか (* p.8)

— 「利用している」が7割台半ば —

〔問2：質問〕

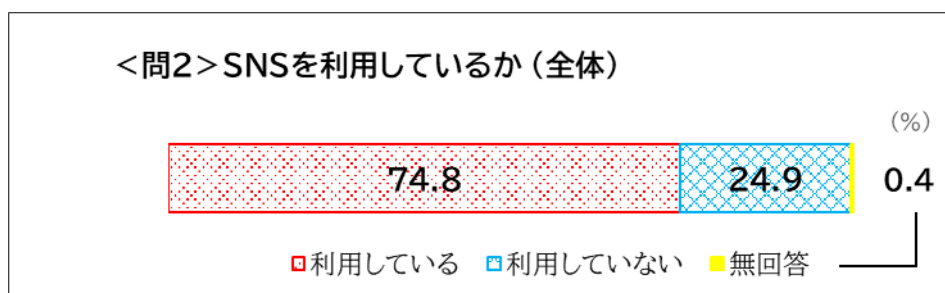
あなたはふだん、スマートフォンやパソコンなどでSNSを利用していますか。それとも、利用していませんか。閲覧のみも利用に含みます。（一つ回答）

※ SNS（インターネット上で利用者同士が交流するサービス）の例
LINE（ライン）、X（エックス、旧 Twitter（ツイッター））、
Facebook（フェイスブック）、Instagram（インスタグラム） 等

〔問2：全体の結果〕

結果は、次のグラフのとおり。（選択肢はグラフに示している。）

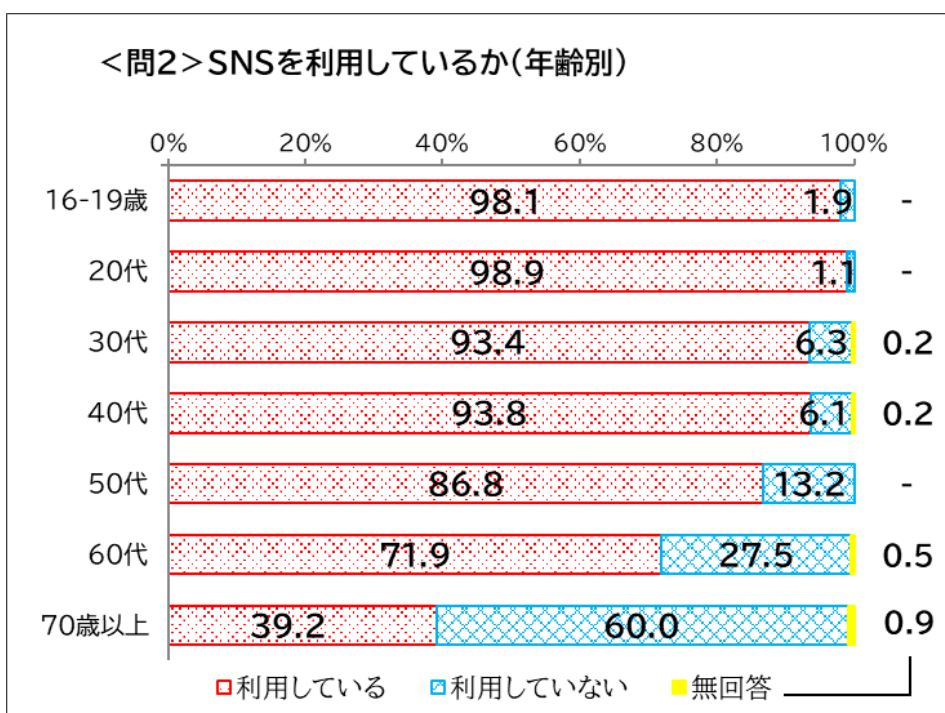
「利用している」を選択した人の割合が74.8%となっている。一方、「利用していない」は24.9%となっている。



〔問2：年齢別の結果〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「利用している」を選択した人の割合は、年齢が上がるに従って割合が低くなる傾向にあり、40代以下で9割台、50代で8割台、60代で約7割、70歳以上で約4割となっている。



<問2付問1> 仲間内や一対一での、SNSのメッセージ送信等を行っているか

(※ p.10)

— 「行っている」が8割台半ば—

〔問2付問1：質問〕

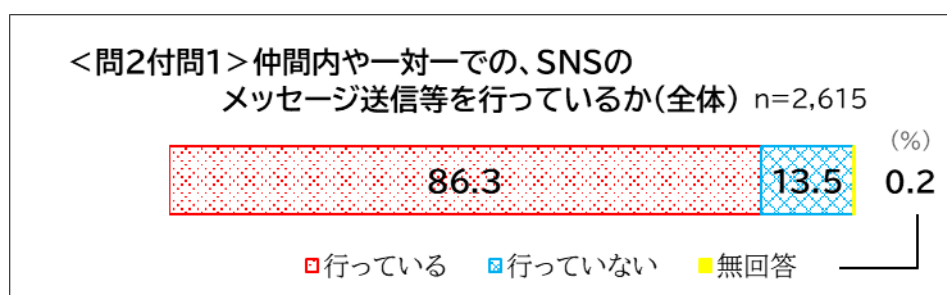
(問2で「利用している」と答えた人(全体の74.8%)に対して)

あなたはふだん、SNSで、限られた仲間内や、相手と一対一のやり取りにおいて、コメントやメッセージの送信等を行っていますか。それとも、行っていませんか。(一つ回答)

〔問2付問1：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

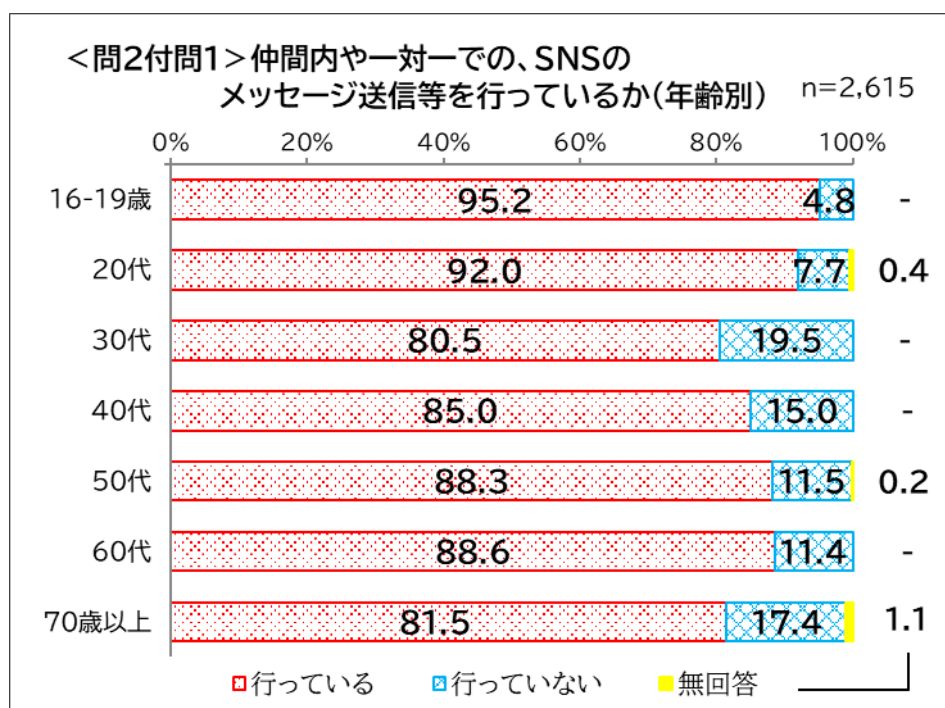
「行っている」を選択した人の割合が86.3%となっている。一方、「行っていない」は13.5%となっている。



〔問2付問1：年齢別の結果〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「行っている」を選択した人の割合は、30代と70歳以上で約8割と、他の年齢層より低くなっている。



<問2付問2> 仲間内や一対一での、SNSのメッセージ送信等で感じる利点

(※ p.12)

— 「都合のいい時間にやり取りできる」が7割台と最も高い —

〔問2付問2：質問〕

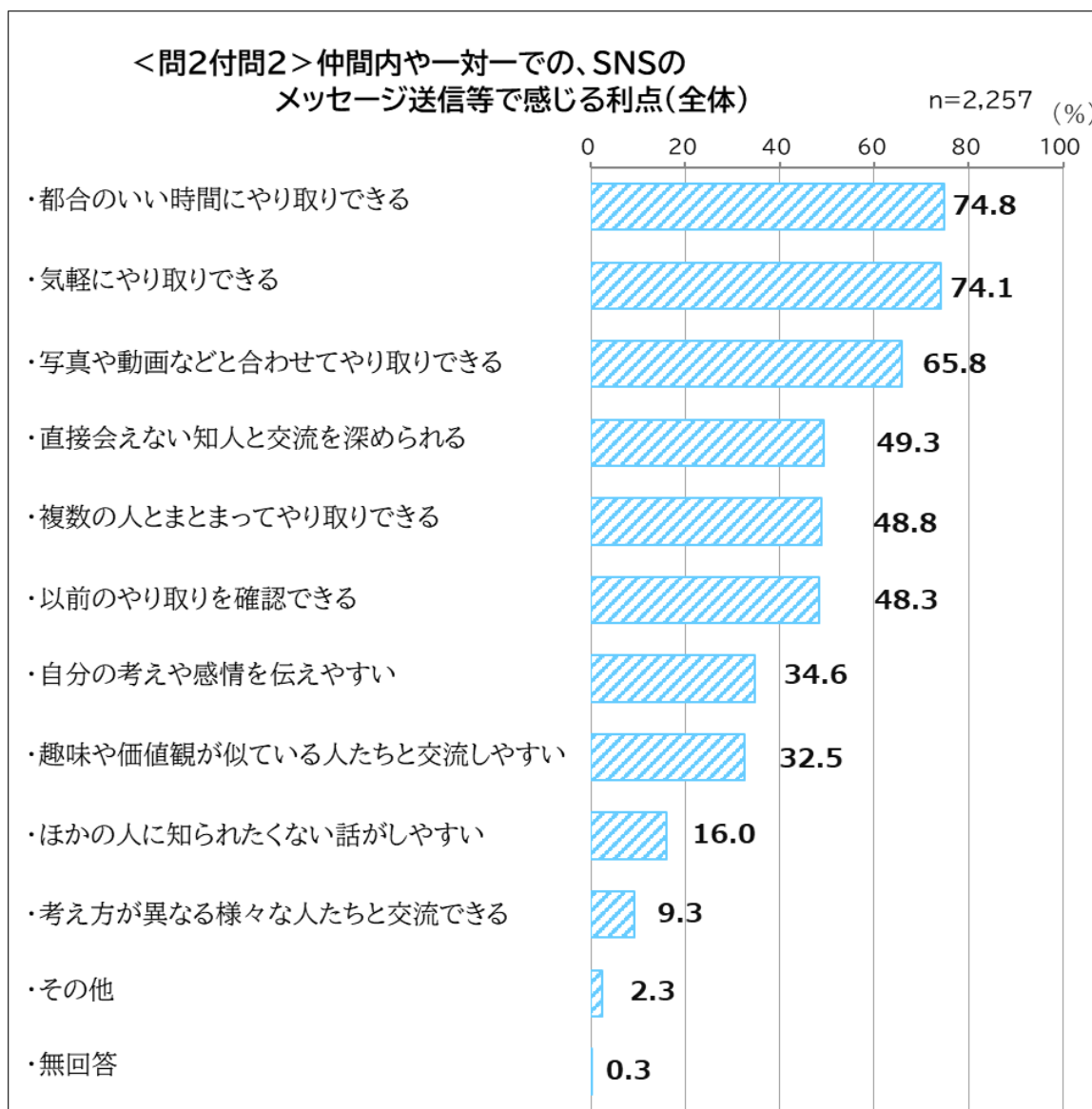
(問2付問1で「行っている」と答えた人(86.3%、全体の64.5%)に対して)

あなたは、SNSで、限られた仲間内や、相手と一対一のやり取りにおいて、コメントやメッセージの送信等を行うことに、どのような利点を感じていますか。(幾つでも回答)

〔問2付問2：全体の結果〕

結果は、次のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

「都合のいい時間にやり取りできる」を選択した人の割合が最も高く、74.8%となっている。次いで「気軽にやり取りできる」が74.1%、「写真や動画などと合わせてやり取りできる」が65.8%、「直接会えない知人と交流を深められる」が49.3%、「複数の人とまとまってやり取りできる」が48.8%、「以前のやり取りを確認できる」が48.3%となっている。



〔 問2付問2：年齢別の結果 〕

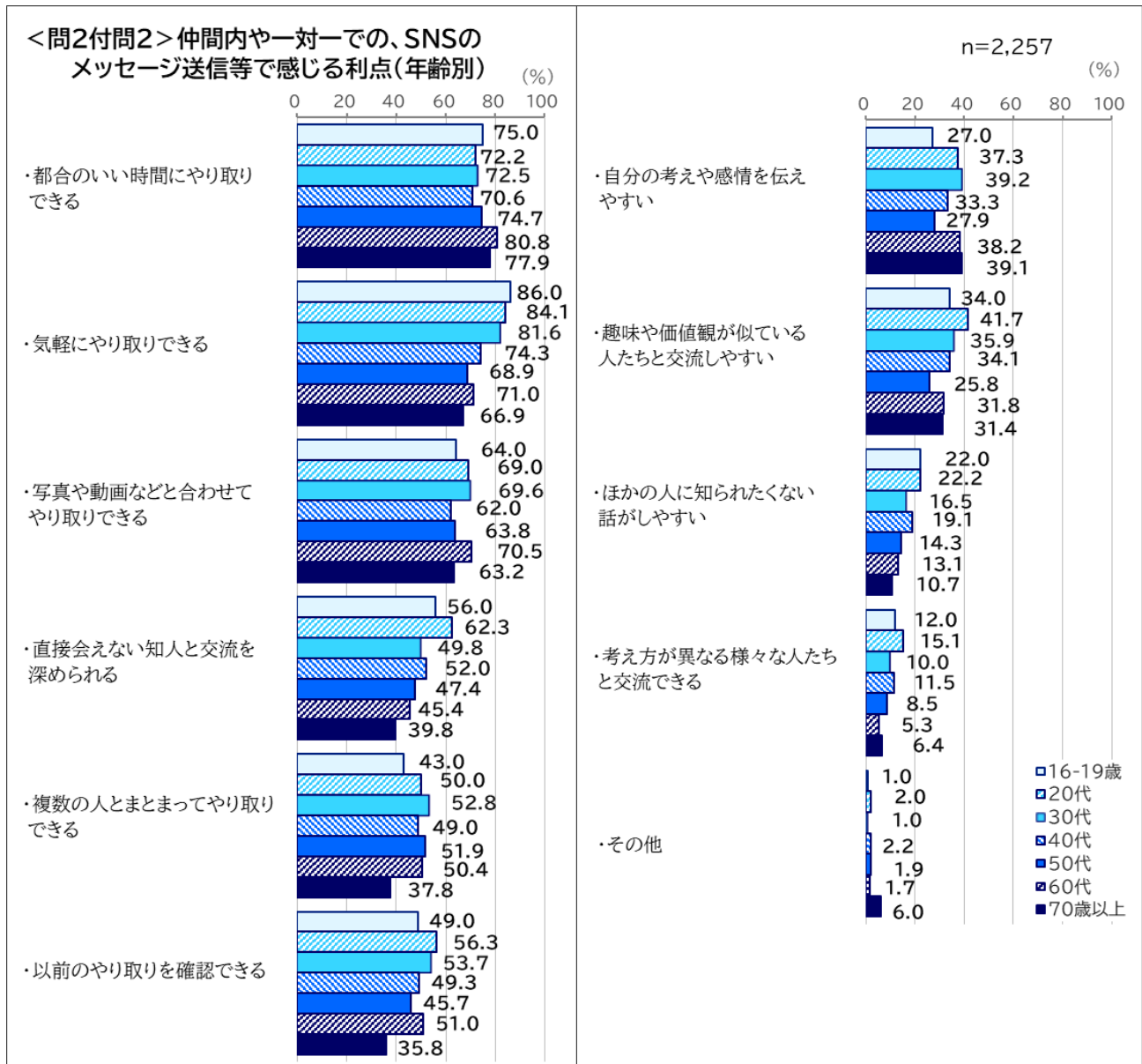
年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「都合のいい時間にやり取りできる」、「写真や動画などと合わせてやり取りできる」を選択した人の割合は、60代で他の年齢層より高くなっている。

「気軽にやり取りできる」「ほかの人に知られたくない話がしやすい」は、年齢が上がるに従って、割合が低くなる傾向にある。

「直接会えない知人と交流を深められる」、「趣味や価値観が似ている人たちと交流しやすい」、「考え方が異なる様々な人たちと交流できる」は、20代で他の年齢層より高くなっている。

「複数の人とまとまってやり取りできる」、「以前のやり取りを確認できる」は、70歳以上で他の年齢層より低くなっている。



<問2付問3> 仲間内や一対一での、SNSのメッセージ送信等で戸惑うこと

(※ p.15)

— 「やり取りが面倒に感じることもある」が約5割と最も高い —

〔問2付問3：質問〕

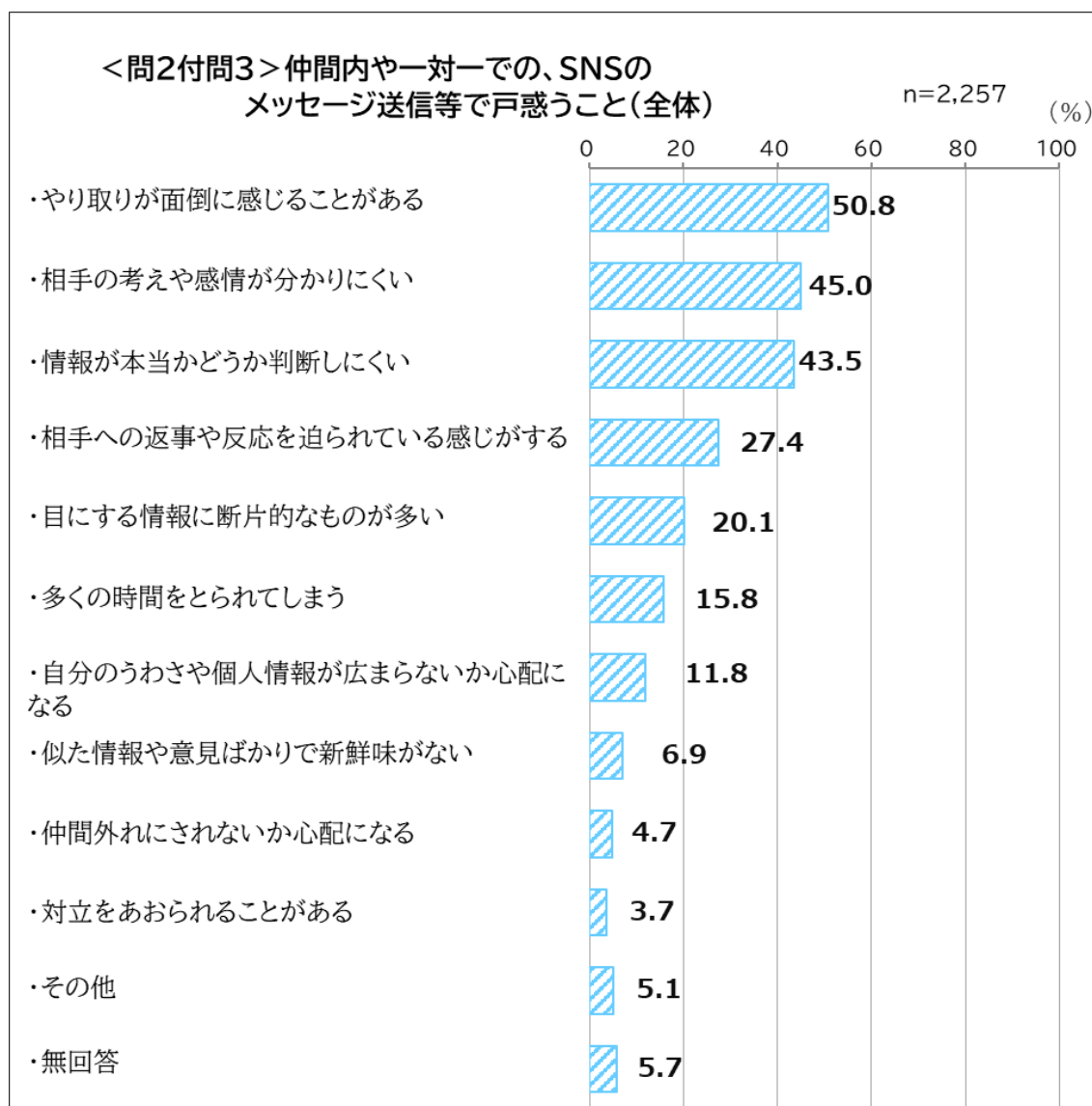
(問2付問1で「行っている」と答えた人(86.3%、全体の64.5%)に対して)

あなたは、SNSで、限られた仲間内や、相手と一対一のやり取りにおいて、コメントやメッセージの送信等を行うことに、どのような戸惑いを感じていますか。(幾つでも回答)

〔問2付問3：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

「やり取りが面倒に感じることもある」を選択した人の割合が最も高く、50.8%となっている。次いで「相手の感情が分かりにくい」が45.0%、「情報が本当かどうか判断しにくい」が43.5%、「相手への返事や反応を迫られている感じがする」が27.4%、「目にする情報に断片的なものが多い」が20.1%となっている。



〔問2付問3：年齢別の結果〕

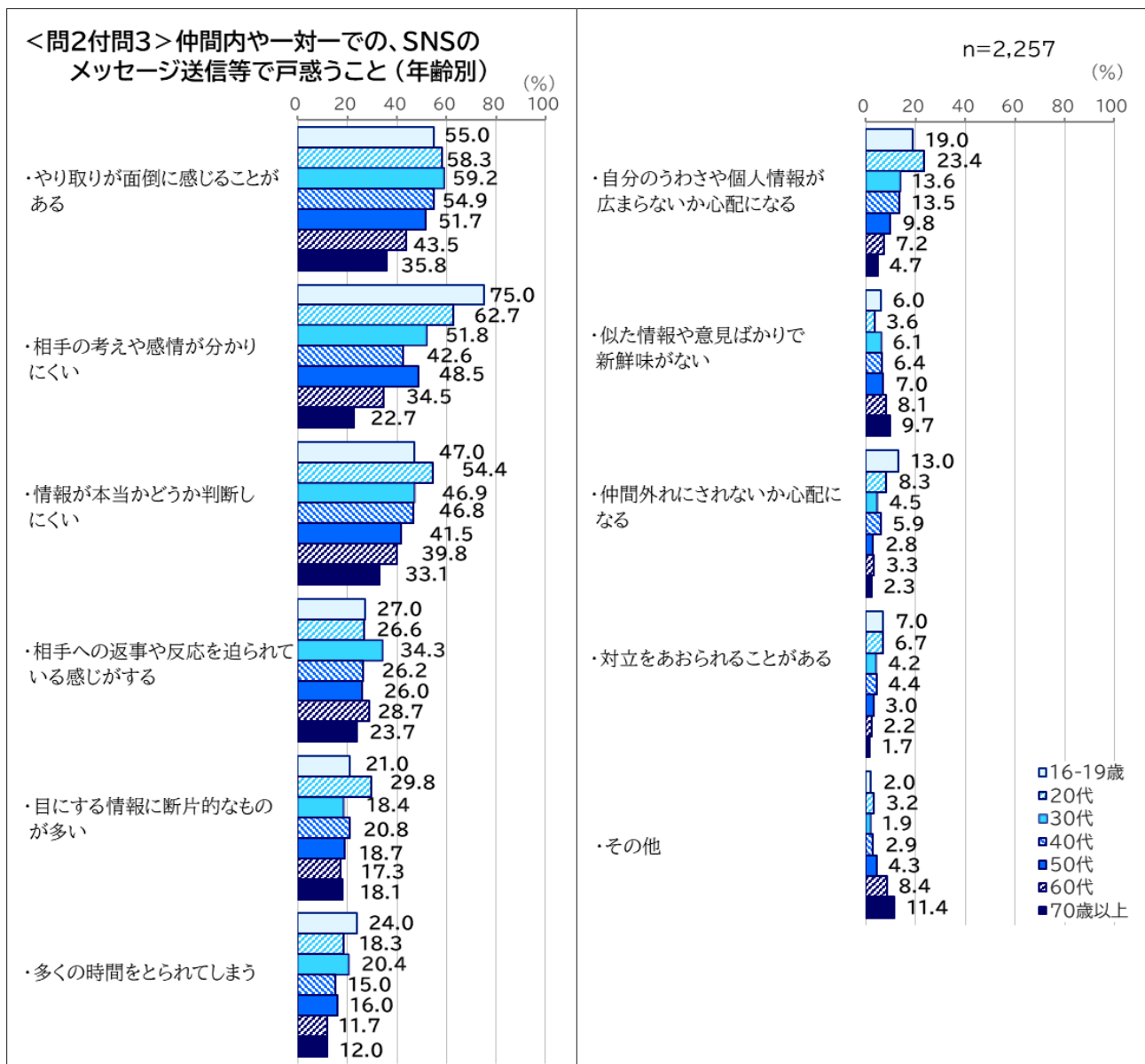
年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「やり取りが面倒に感じることもある」を選択した人の割合は、60代で4割台、70歳以上で3割台と、他の年齢層より低くなっている。

「相手の考えや感情が分かりにくい」、「情報が本当かどうか判断しにくい」は、年齢が上がるに従って、割合が低くなる傾向にある。

「相手への返事や反応を迫られている感じがする」は、30代で、「目にする情報に断片的なものが多い」は、20代で、他の年齢層より高くなっている。

「自分のうわさや個人情報が広まらないか心配になる」、「仲間外れにされないか心配になる」は、20代以下で他の年齢層より高くなっている。



<問2付問4> 不特定多数に向けた、SNSのコメントや投稿等を行っているか

(※ p.18)

— 「行っていない」が7割台半ば—

〔問2付問4：質問〕

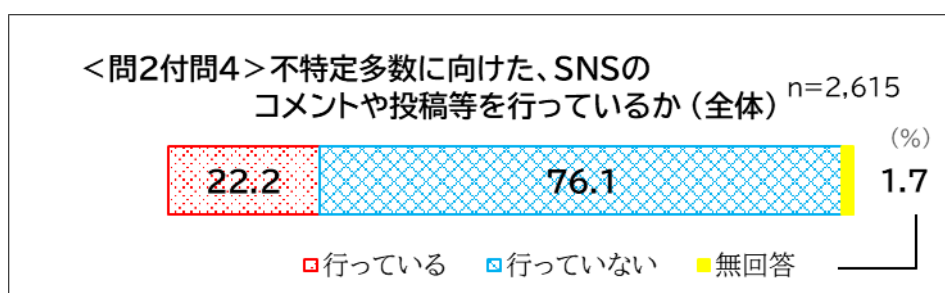
(問2で「利用している」と答えた人(全体の74.8%)に対して)

あなたはふだん、SNSで、誰でも見られるような不特定多数に向けたコメントや投稿等を行っていますか。それとも、行っていませんか。(一つ回答)

〔問2付問4：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

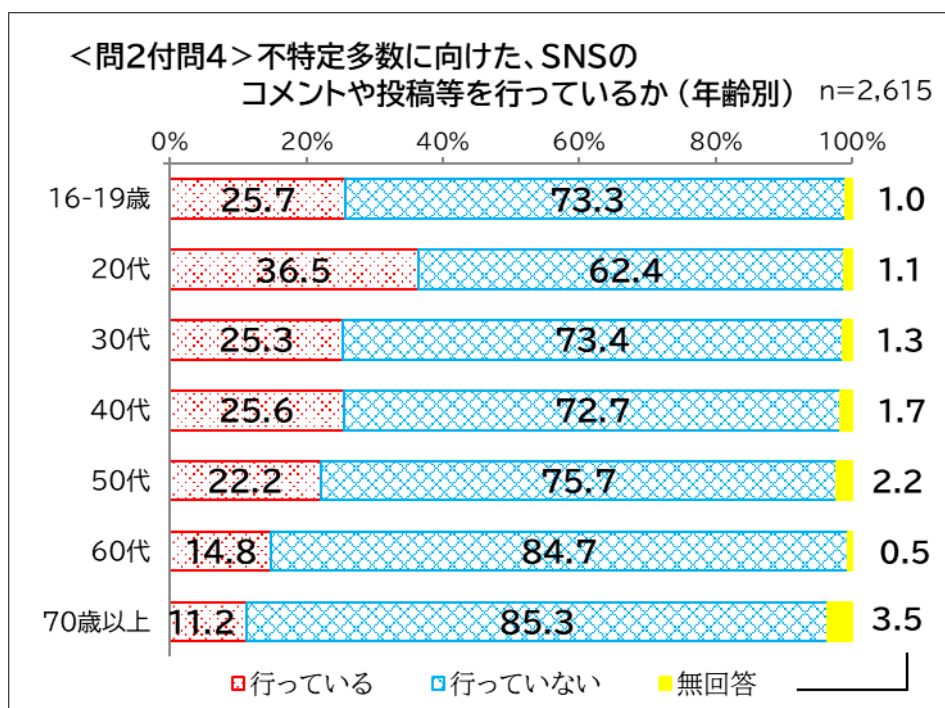
「行っている」を選択した人の割合が22.2%となっている。一方、「行っていない」は76.1%となっている。



〔問2付問4：年齢別の結果〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「行っている」を選択した人の割合は、20代で他の年齢層より高く、60歳以上で他の年齢層より低くなっている。



<問2付問5> 不特定多数に向けた、SNSのコメントや投稿等で感じる利点

(※ p.20)

— 「趣味や価値観が似ている人たちと交流しやすい」が6割台と最も高い —

〔問2付問5：質問〕

(問2付問4で「行っている」と答えた人(22.2%、全体の16.6%)に対して)

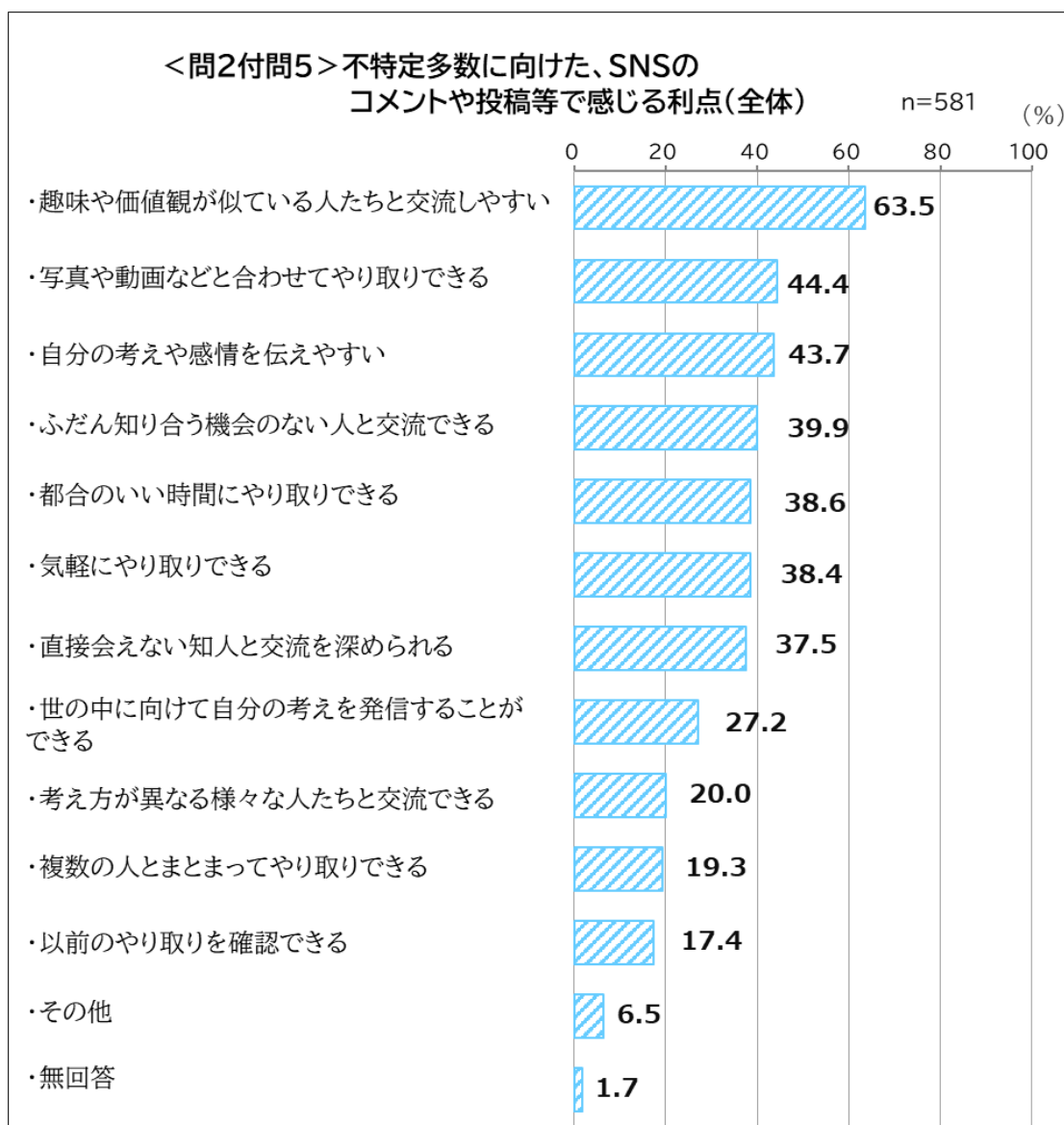
あなたは、SNSで、誰でも見られるような不特定多数に向けたコメントや投稿等を行うことに、どのような利点を感じていますか。(幾つでも回答)

〔問2付問5：全体の結果〕

結果は、次のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

「趣味や価値観が似ている人たちと交流しやすい」を選択した人の割合が最も高く、63.5%となっている。

次いで「写真や動画などと合わせてやり取りできる」が44.4%、「自分の考えや感情を伝えやすい」が43.7%、「ふだん知り合う機会のない人と交流できる」が39.9%、「都合のいい時間にやり取りできる」が38.6%、「気軽にやり取りできる」が38.4%、「直接会えない知人と交流を深められる」が37.5%となっている。



<問2付問6> 不特定多数に向けた、SNSのコメントや投稿等で戸惑うこと

(※ p.22)

— 「情報が本当かどうか判断しにくい」が約5割と最も高い —

〔問2付問6：質問〕

(問2付問4で「行っている」と答えた人(22.2%、全体の16.6%)に対して)

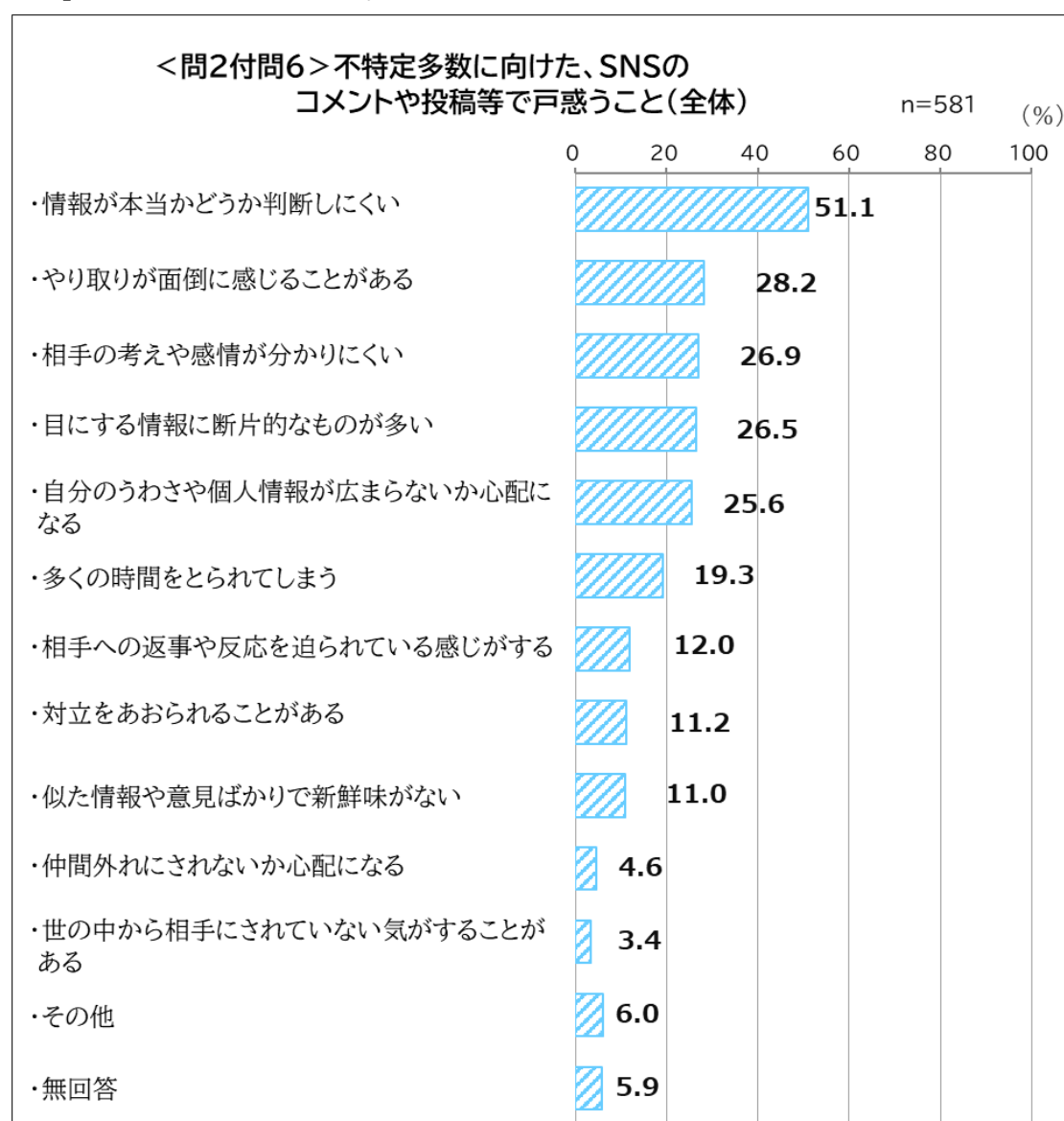
あなたは、SNSで、誰でも見られるような不特定多数に向けたコメントや投稿等を行うことに、どのような戸惑いを感じていますか。(幾つでも回答)

〔問2付問6：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

「情報が本当かどうか判断しにくい」を選択した人の割合が最も高く、51.1%となっている。

次いで「やり取りが面倒に感じることもある」が28.2%、「相手の考えや感情が分かりにくい」が26.9%、「目にする情報に断片的なものが多い」が26.5%、「自分のうわさや個人情報が広まらないか心配になる」が25.6%となっている。



<問3> SNSの普及による、社会における文字や語句、言葉の使い方への影響 (* p. 24)

— 「影響があると思う(計)」が約9割 —

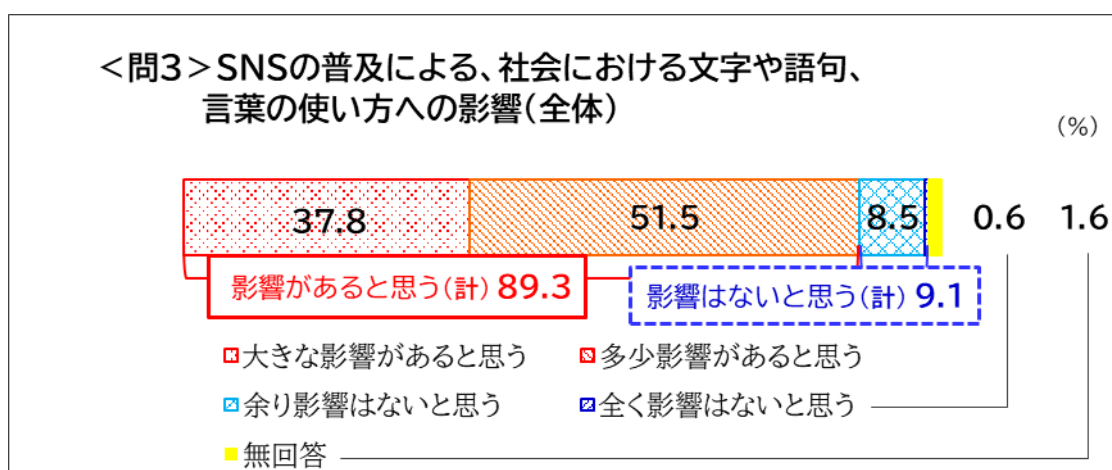
〔問3：質問〕

あなたは、SNSの普及によって、社会で使われる文字や語句、また、社会における言葉の使い方に影響があると思いますか。それとも、影響はないと思いますか。 (一つ回答)

〔問3：全体の結果〕

結果は、次のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

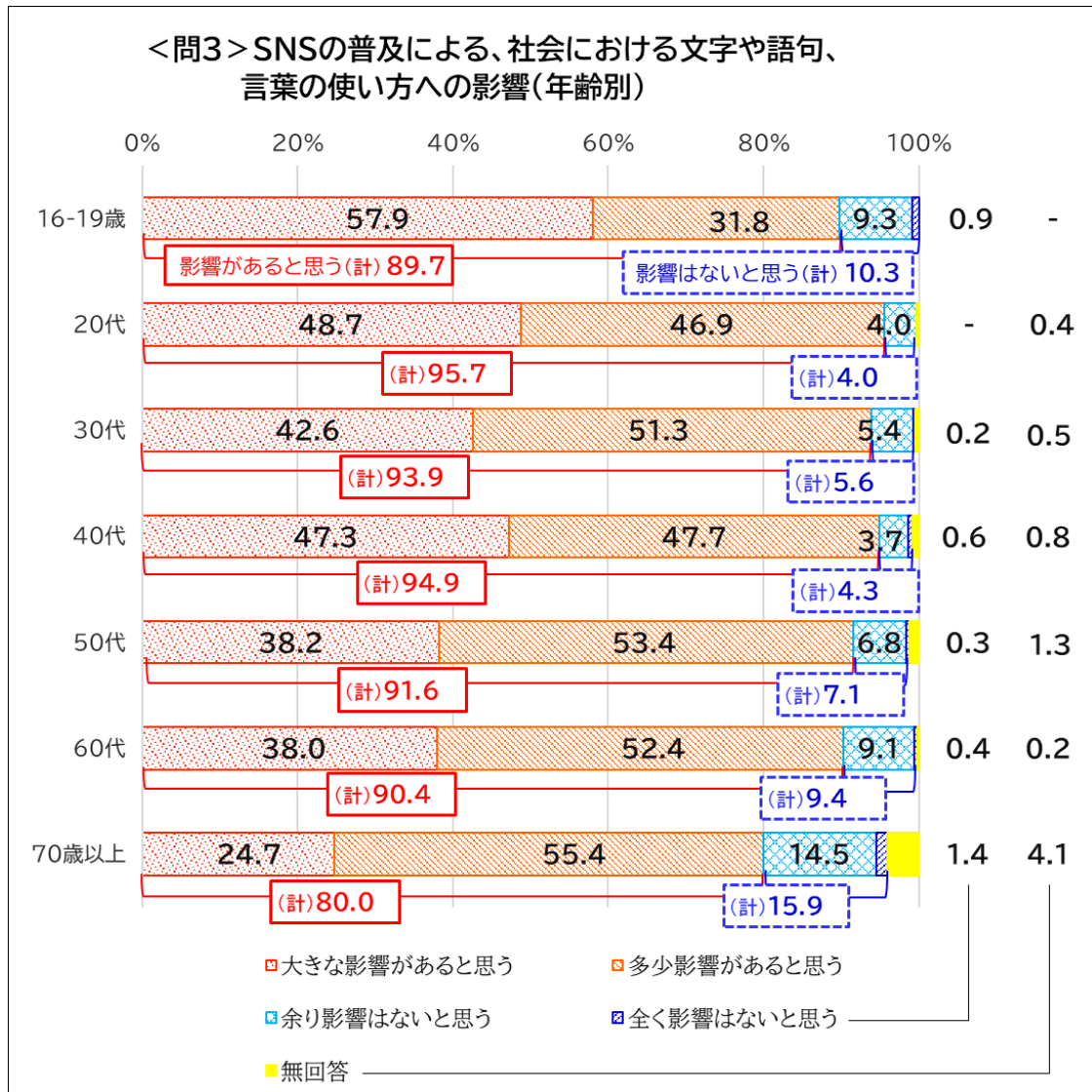
「大きな影響があると思う」を選択した人の割合が 37.8%、「多少影響があると思う」が 51.5%で、この二つを合わせた「影響があると思う(計)」は 89.3%となっている。一方、「全く影響はないと思う」は 0.6%、「余り影響はないと思う」は 8.5%で、この二つを合わせた「影響はないと思う(計)」は 9.1%となっている。



〔 問3：年齢別の結果 〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「大きな影響があると思う」を選択した人の割合は、70歳以上で他の年齢層より低くなっている。



<問3付問1> SNSの普及が、社会で使われる文字や語句に及ぼす影響（＊ p.26）

— 「略語が増える」が約8割と最も高い—

〔問3付問1：質問〕

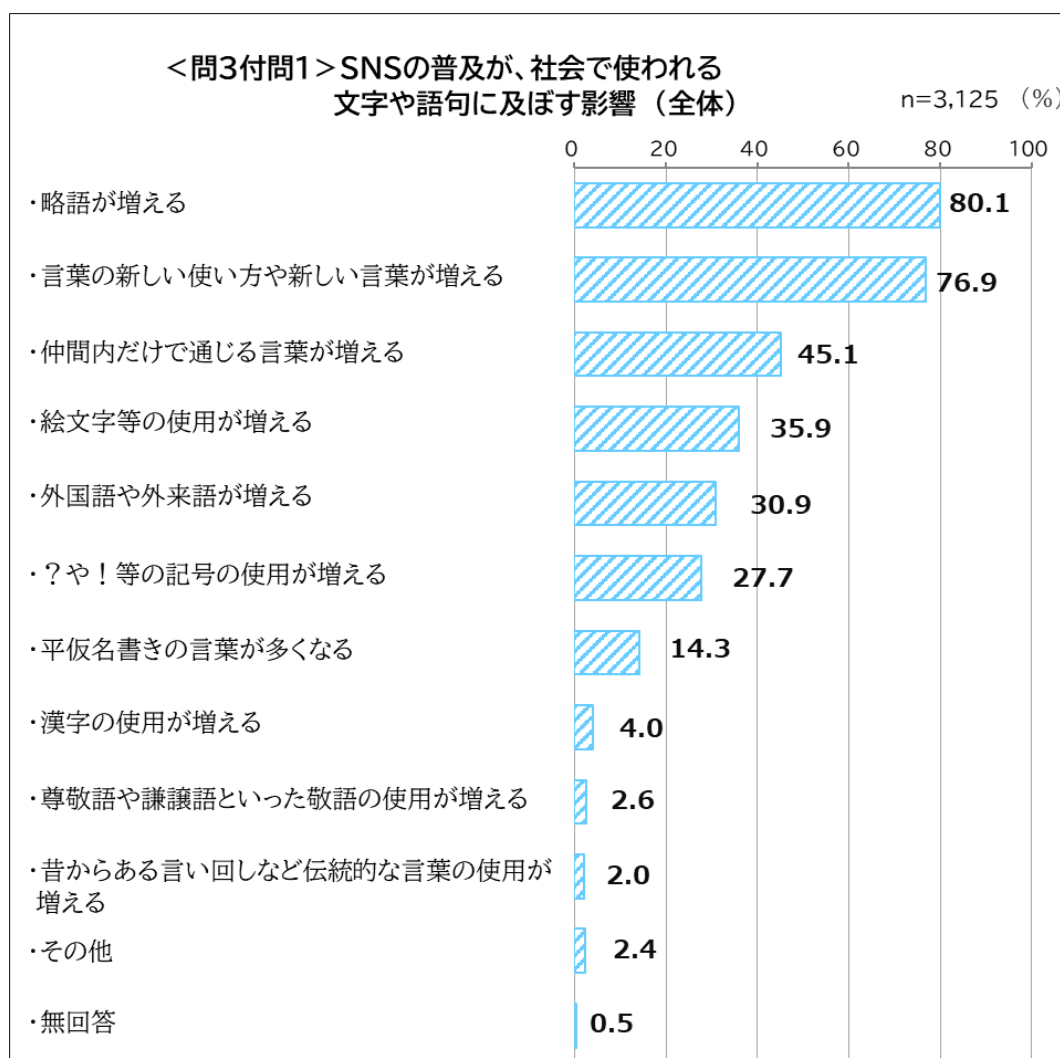
（問3で「大きな影響があると思う」「多少影響があると思う」と答えた人（全体の89.3%）に対して）
そのうち、社会で使われる文字や語句にどのような影響があると思いますか。（幾つでも回答）

〔問3付問1：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。（選択肢はグラフに示している。）

「略語が増える」を選択した人の割合が最も高く、80.1%となっている。

次いで「言葉の新しい使い方や新しい言葉が増える」が76.9%、「仲間内だけで通じる言葉が増える」が45.1%、「絵文字等の使用が増える」が35.9%となっている。



〔 問3 付問1：年齢別の結果 〕

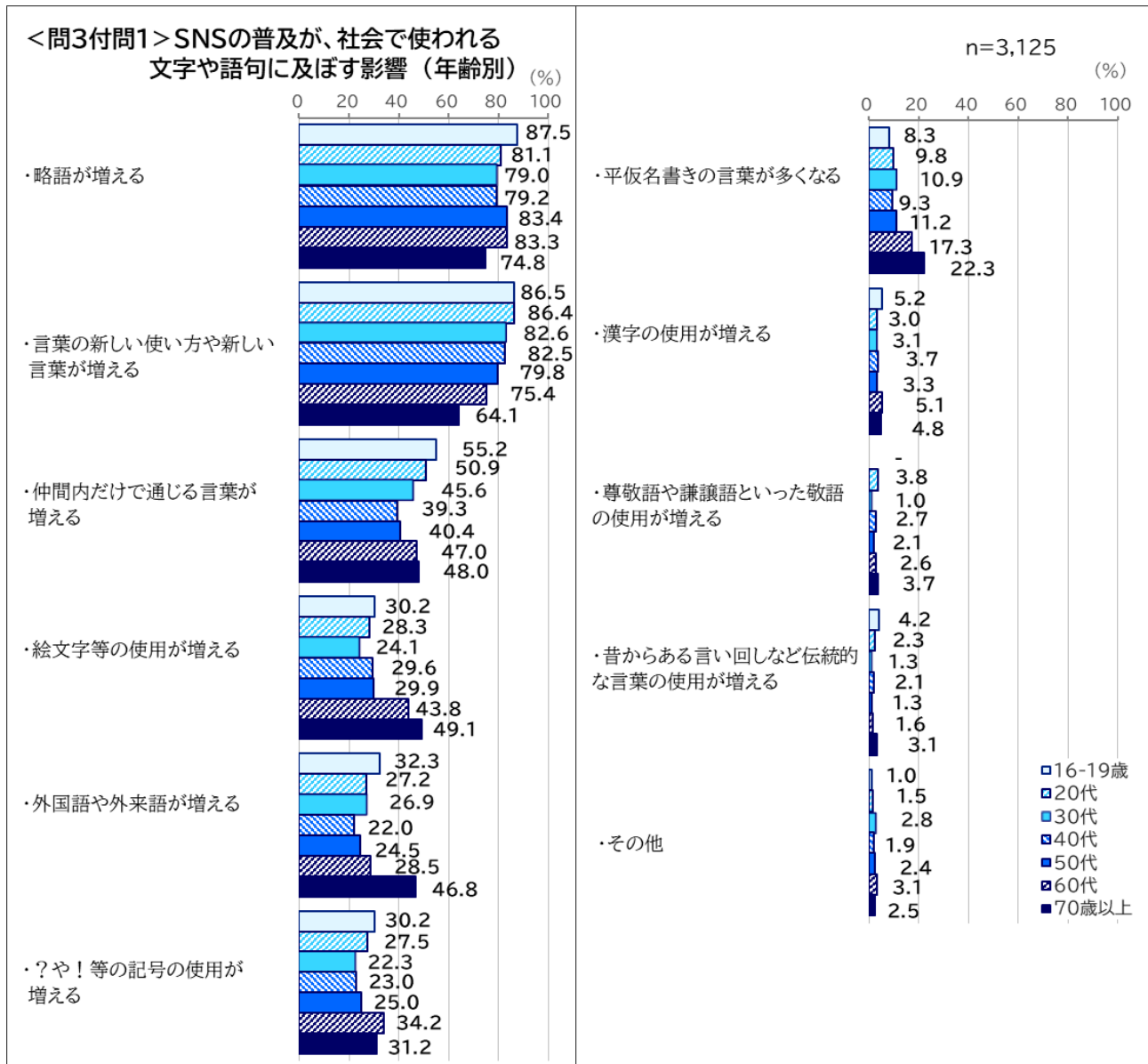
年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「略語が増える」、「言葉の新しい使い方や新しい言葉が増える」をそれぞれ選択した人の割合は、70歳以上で他の年齢層より低くなっている。

「仲間内だけで通じる言葉が増える」は、40～50代で他の年齢層より低くなっている。

「絵文字等の使用が増える」は、60代以上で他の年齢層より高くなっている。

「外国語や外来語が増える」は、70歳以上で、「?や!等の記号の使用が増える」、「平仮名書きの言葉が多くなる」は、60代以上で、他の年齢層より高くなっている。



<問3付問2> SNSの普及が、社会における言葉の使い方に及ぼす影響（＊ p.29）

— 「短い言葉でのやり取りが増える」が7割台と最も高い —

〔問3付問2：質問〕

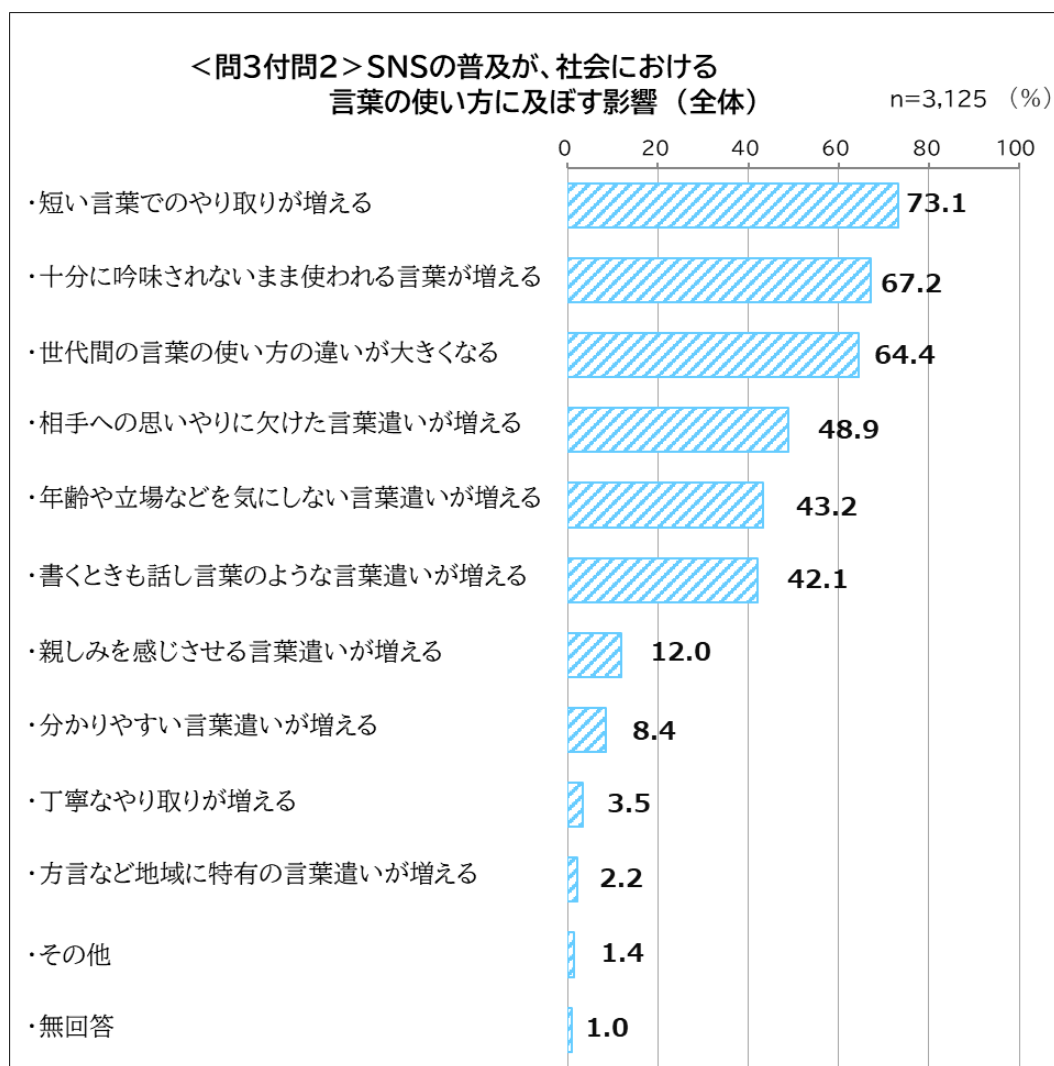
（問3で「大きな影響があると思う」「多少影響があると思う」と答えた人（全体の89.3%）に対して）
社会における言葉の使い方にどのような影響があると思いますか。（幾つでも回答）

〔問3付問2：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。（選択肢はグラフに示している。）

「短い言葉でのやり取りが増える」を選択した人の割合が最も高く、73.1%となっている。

次いで「十分に吟味されないまま使われる言葉が増える」が67.2%、「世代間の言葉の使い方の違いが大きくなる」が64.4%、「相手への思いやりに欠けた言葉遣いが増える」が48.9%、「年齢や立場などを気にしない言葉遣いが増える」が43.2%、「書くときも話し言葉のような言葉遣いが増える」が42.1%となっている。



〔問3付問2：年齢別の結果〕

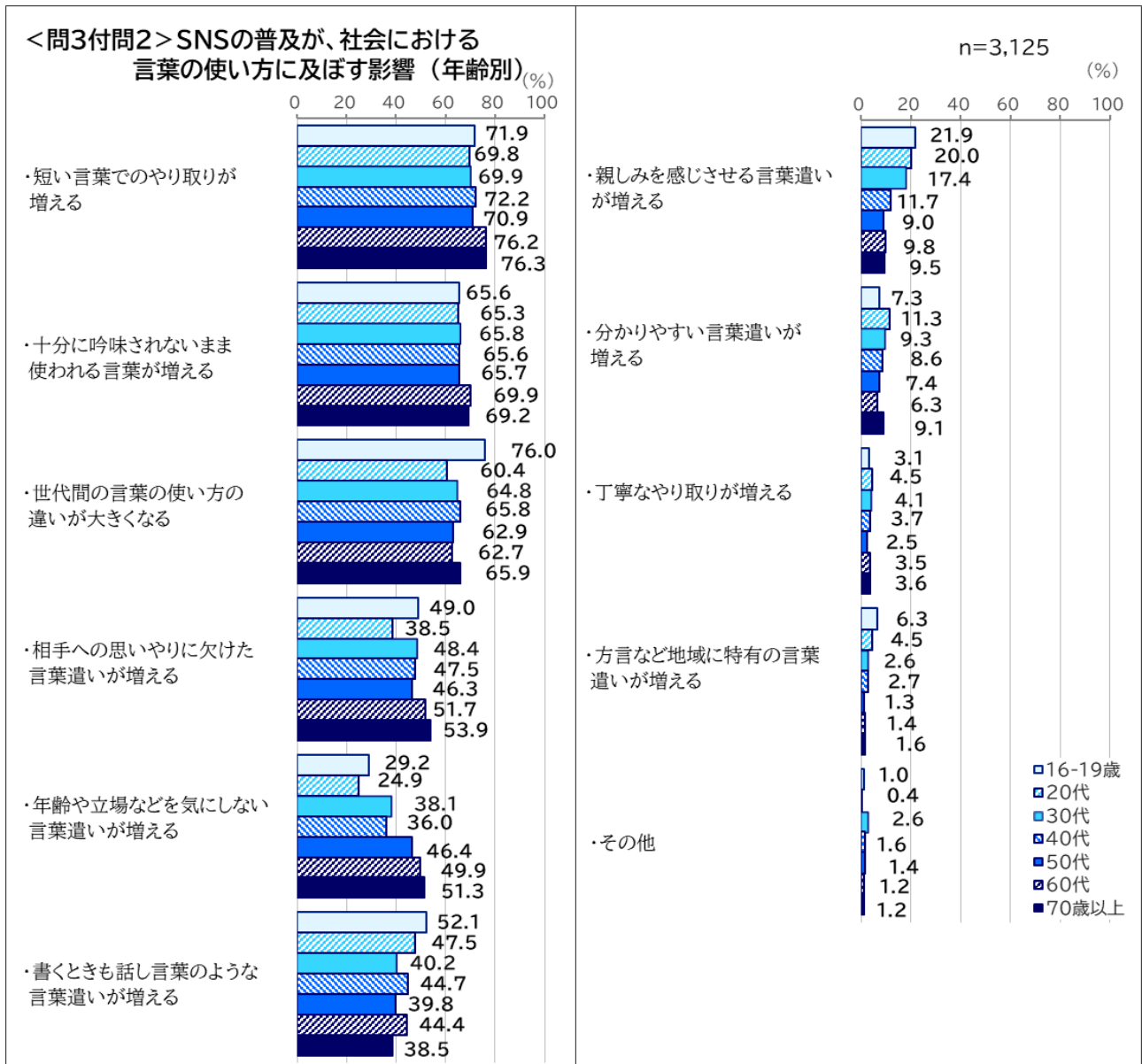
年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「世代間の言葉の使い方の違いが大きくなる」、「書くときも話し言葉のような言葉遣いが増える」を選択した人の割合は、16～19歳で他の年齢層より高くなっている。

「相手への思いやりに欠けた言葉遣いが増える」は、20代で他の年齢層より低くなっている。

「年齢や立場などを気にしない言葉遣いが増える」は、年齢が上がるに従って、割合が高くなる傾向にある。

「親しみを感じさせる言葉遣いが増える」は、年齢が上がるに従って、割合が低くなる傾向にある。



<問4> SNSによるコミュニケーションの質を社会全体で高めていく上での課題

(※ p.32)

— 「正確かどうか疑わしい情報がよく見られる」が約7割 —

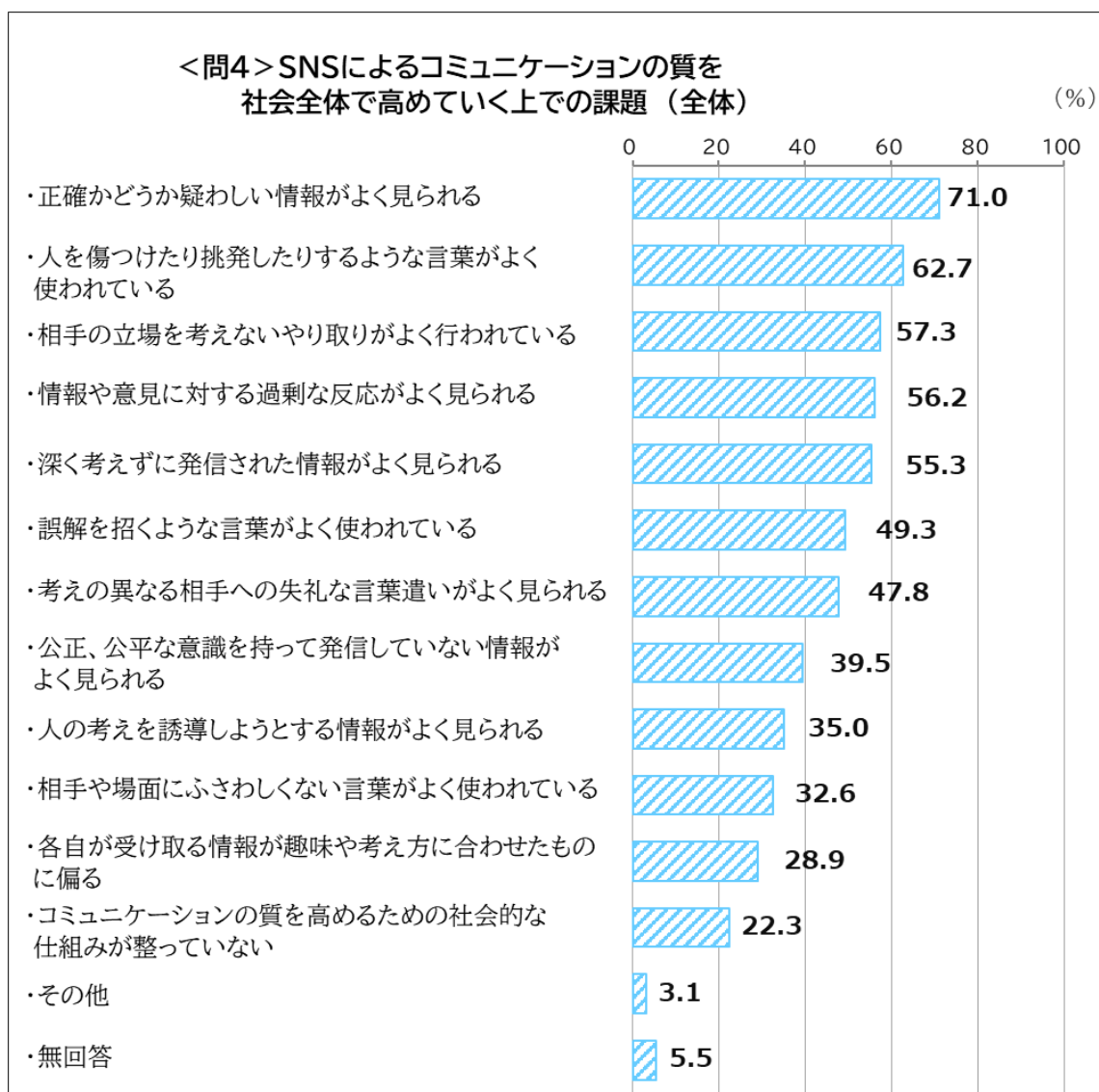
〔問4：質問〕

SNSにおけるコミュニケーションが社会に様々な影響を及ぼしているという指摘があります。あなたは、SNSによるコミュニケーションの質を社会全体で高めていく上で、どのような課題があると思いますか。（幾つでも回答）

〔問4：全体の結果〕

結果は、次のグラフのとおり。（選択肢はグラフに示している。）

「正確かどうか疑わしい情報がよく見られる」を選択した人の割合が最も高く、71.0%となっている。次いで「人を傷つけたり挑発したりするような言葉がよく使われている」が62.7%、「相手の立場を考えないやり取りがよく行われている」が57.3%、「情報や意見に対する過剰な反応がよく見られる」が56.2%、「深く考えずに発信された情報がよく見られる」が55.3%、「誤解を招くような言葉がよく使われている」が49.3%、「考えの異なる相手への失礼な言葉遣いがよく見られる」が47.8%となっている。



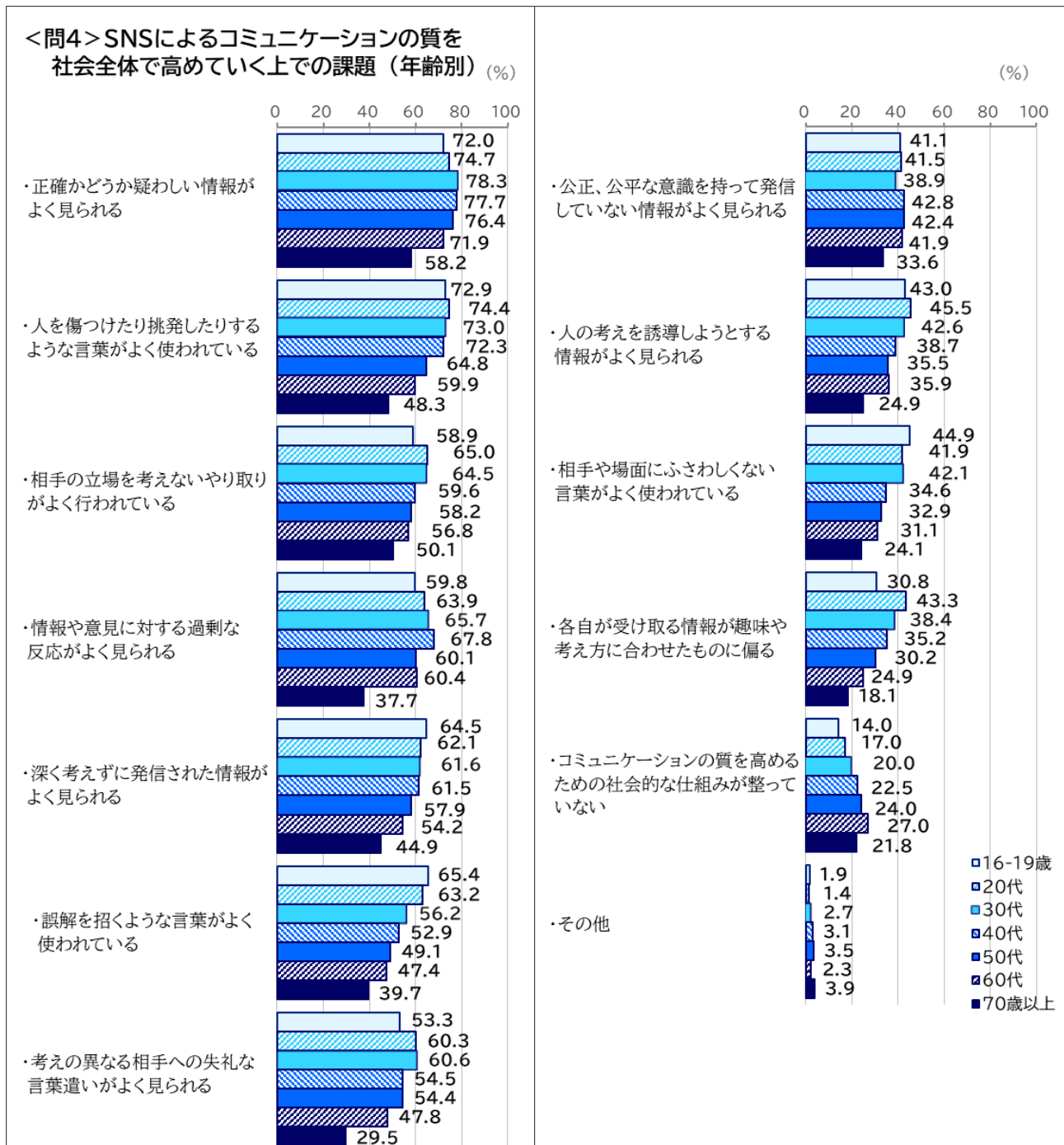
〔問4：年齢別の結果〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「正確かどうか疑わしい情報がよく見られる」、「人を傷つけたり挑発したりするような言葉がよく使われている」、「相手の立場を考えないやり取りがよく行われている」、「情報や意見に対する過剰な反応がよく見られる」、「深く考えずに発信された情報がよく見られる」、「考えの異なる相手への失礼な言葉遣いがよく見られる」をそれぞれ選択した人の割合は、70歳以上で他の年齢層より低くなっている。

「誤解を招くような言葉がよく使われている」、「人の考えを誘導しようとする情報がよく見られる」、「相手や場面にふさわしくない言葉がよく使われている」は、年齢が上がるに従って、割合が低くなる傾向にある。

「コミュニケーションの質を高めるための社会的な仕組みが整っていない」は、年齢が上がるに従い、割合が高くなる傾向にある。



<問5> SNSでのコミュニケーションの質を高めるために気を付けたいと思う点

(※ p.36)

— 「人を傷つけたり挑発したりするような言葉を使わない」が7割台半ば —

〔問5：質問〕

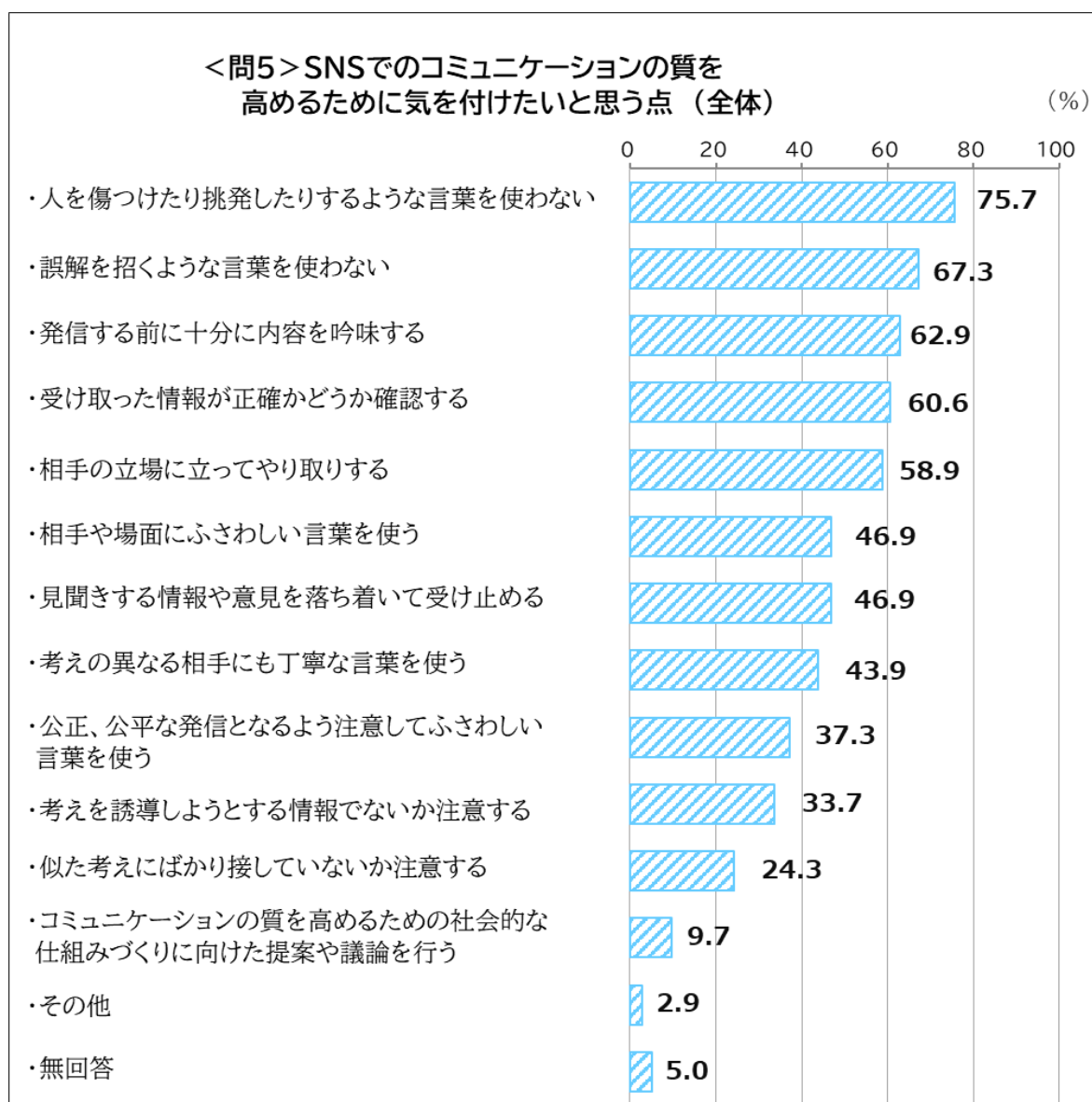
あなたがSNSを利用するとしたら、そこでのコミュニケーションの質を高めるために、あなた自身はどのような点に気を付けたいと思いますか。（幾つでも回答）

〔問5：全体の結果〕

結果は、次のグラフのとおり。（選択肢はグラフに示している。）

「人を傷つけたり挑発したりするような言葉を使わない」を選択した人の割合が最も高く、75.7%となっている。

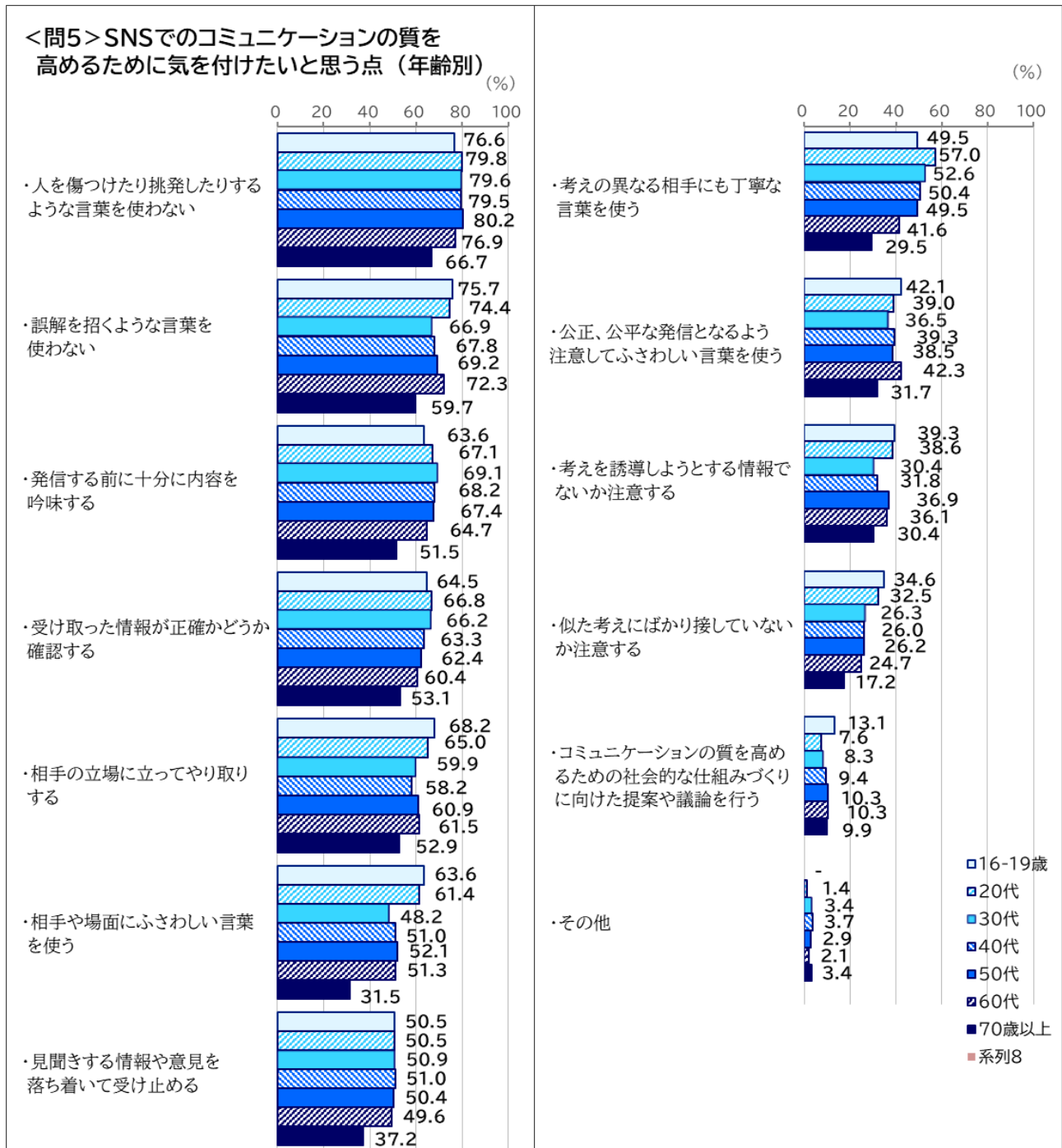
次いで「誤解を招くような言葉を使わない」は 67.3%、「発信する前に十分に内容を吟味する」は 62.9%、「受け取った情報が正確かどうか確認する」は 60.6%、「相手の立場に立ってやり取りする」は 58.9%となっている。



〔 問5：年齢別の結果 〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「コミュニケーションの質を高めるための社会的な仕組みづくりに向けた提案や議論を行う」以外のほぼ全ての選択肢において、選択した人の割合は、70歳以上で他の年齢層より低くなっている。



Ⅱ 敬語に関する意識

<問6> 敬語の必要性 (* p.39)

— 「必要だと思う(計)」が9割台 —

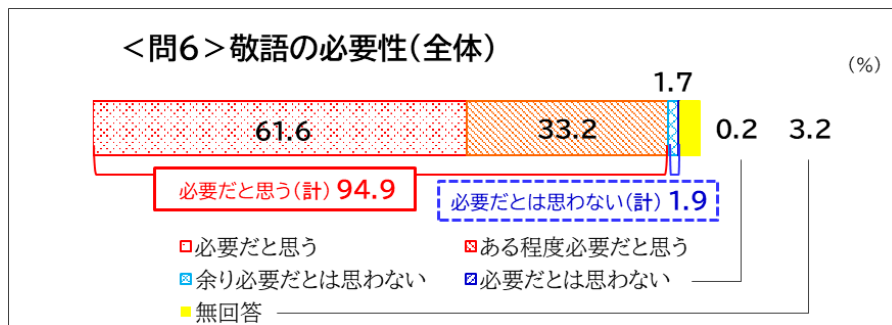
〔問6：質問〕

あなたは、今後とも敬語は必要だと思いますか。 (一つ回答)

〔問6：全体の結果〕

結果は、次のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

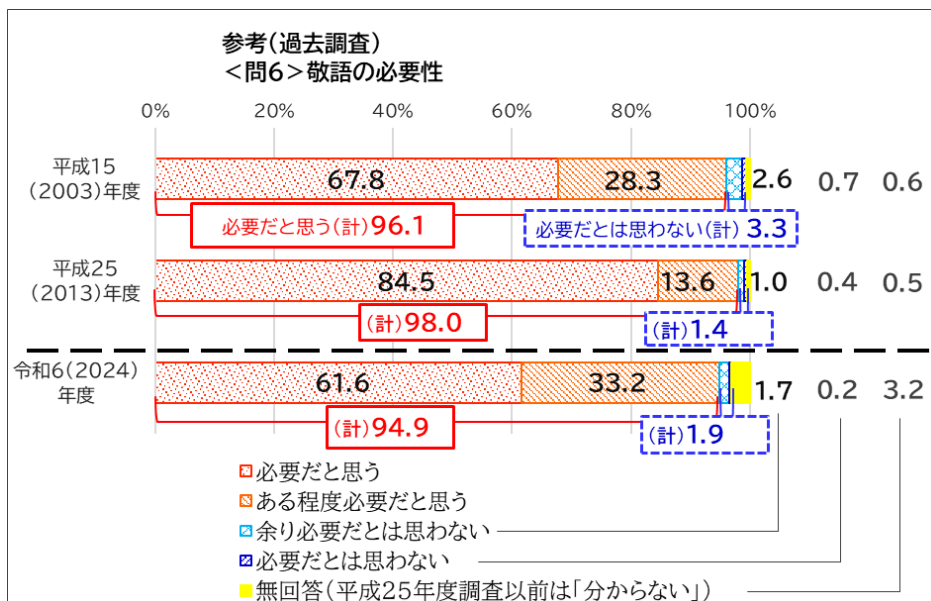
「必要だと思う」を選択した人の割合が61.6%、「ある程度必要だと思う」が33.2%で、この二つを合わせた「必要だと思う(計)」は94.9%となっている。一方、「必要だとは思わない」は0.2%、「余り必要だとは思わない」は1.7%で、この二つを合わせた「必要だとは思わない(計)」は1.9%となっている。



〔(参考) 問6：過去の調査結果〕

調査方法が変わったため、令和元(2019)年度以前の調査結果については、今回(令和6年度)の調査結果との比較に注意が必要だが、過去の調査結果(平成15、25年度)を参考値として下のグラフに示す。

過去の調査結果においては、「必要だと思う」の割合が増加傾向にあったが、「必要だと思う(計)」「必要だとは思わない(計)」の割合は今回調査とおおむね同様の傾向にあった。

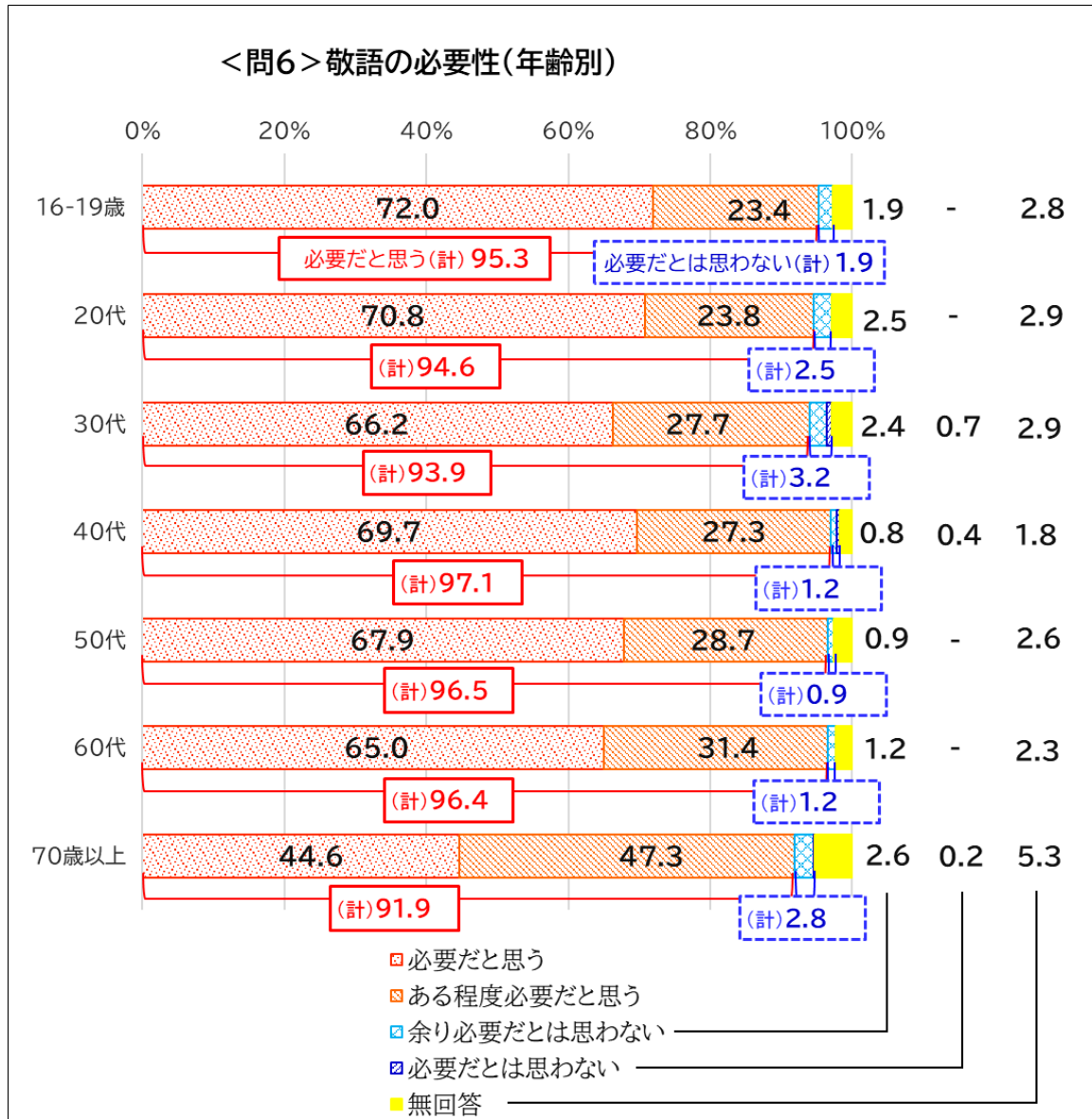


* 調査方法の変更のため、令和元(2019)年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。

〔 問6：年齢別の結果 〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「必要だと思う」を選択した人は、70歳以上で4割台と、他の年齢層より低くなっている。



<問6付問1> 敬語が必要だと思う理由 (* p.41)

— 「相手を尊敬する気持ちを表せるから」が7割台—

〔問6付問1：質問〕

（問6で「必要だと思う」「ある程度必要だと思う」と答えた人（全体の94.9%）に対して）
敬語が必要だと思うのはどのような理由からでしょうか。（二つまで回答）

〔問6付問1：全体の結果、（参考）過去の調査結果〕

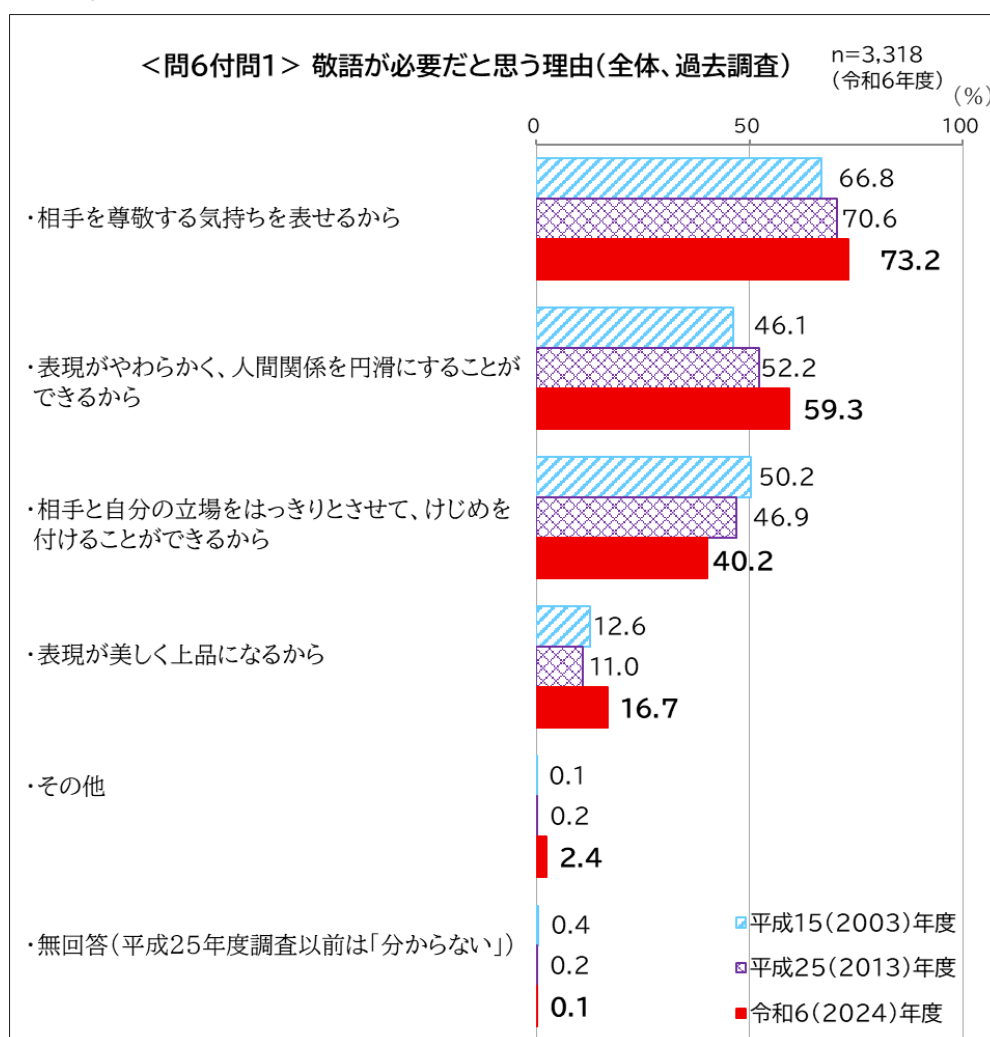
結果は次のグラフのとおり。（選択肢はグラフに示している。）

「相手を尊敬する気持ちを表せるから」を選択した人の割合が最も高く、73.2%となっている。

次いで「表現がやわらかく、人間関係を円滑にすることができるから」が59.3%、「相手と自分の立場をはっきりとさせてけじめを付けることができるから」が40.2%となっている。

調査方法が変わったため、令和元（2019）年度以前の調査結果については、今回（令和6年度）の調査結果との比較に注意が必要だが、過去の調査結果（平成15、25年度）を参考値として下のグラフに示す。

過去の調査結果においては、「表現がやわらかく、人間関係を円滑にすることができるから」の割合が増加傾向にあった。



* 調査方法の変更のため、令和元（2019）年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。

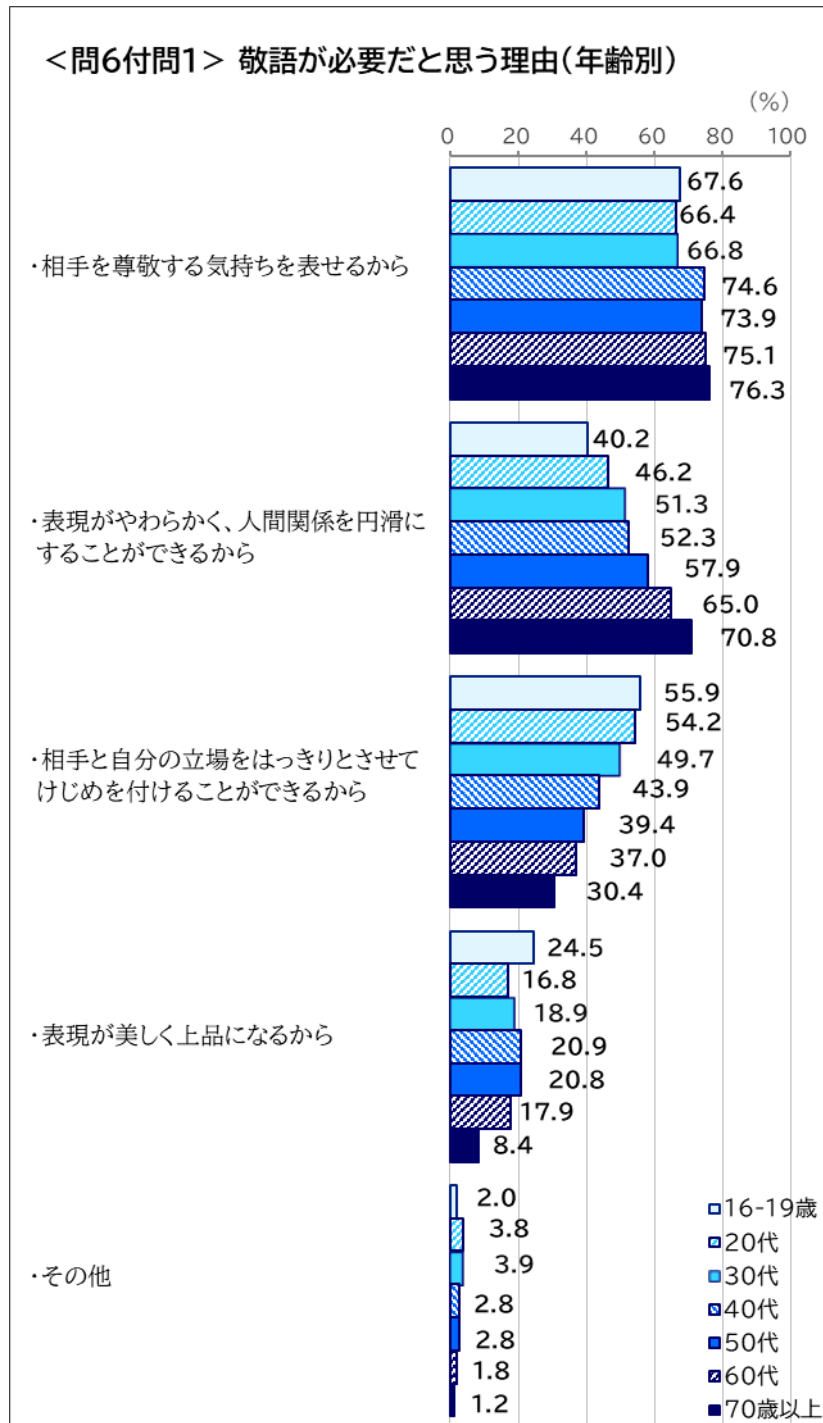
〔問6付問1：年齢別の結果〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「相手を尊敬する気持ちを表せるから」を選択した人の割合は、30代以下で、他の年齢層より低くなっている。

「表現がやわらかく、人間関係を円滑にすることができるから」は、年齢が上がるに従って、割合が高くなっている。

一方、「相手と自分の立場をはっきりとさせてけじめを付けることができるから」は、年齢が上がるに従って、割合が低くなっている。



<問7> 配達の人に対して掛ける言葉 (* p.44)

— 「ありがとう（ございました）」が7割 —

〔問7：質問〕

あなたは、注文した品を届けに来てくれた配達の人に対して、配達が終わったときに何という言葉を掛けることが一番多いですか。（あなたと配達人は同年配とします。） （一つ回答）

〔問7：全体の結果、（参考）過去の調査結果〕

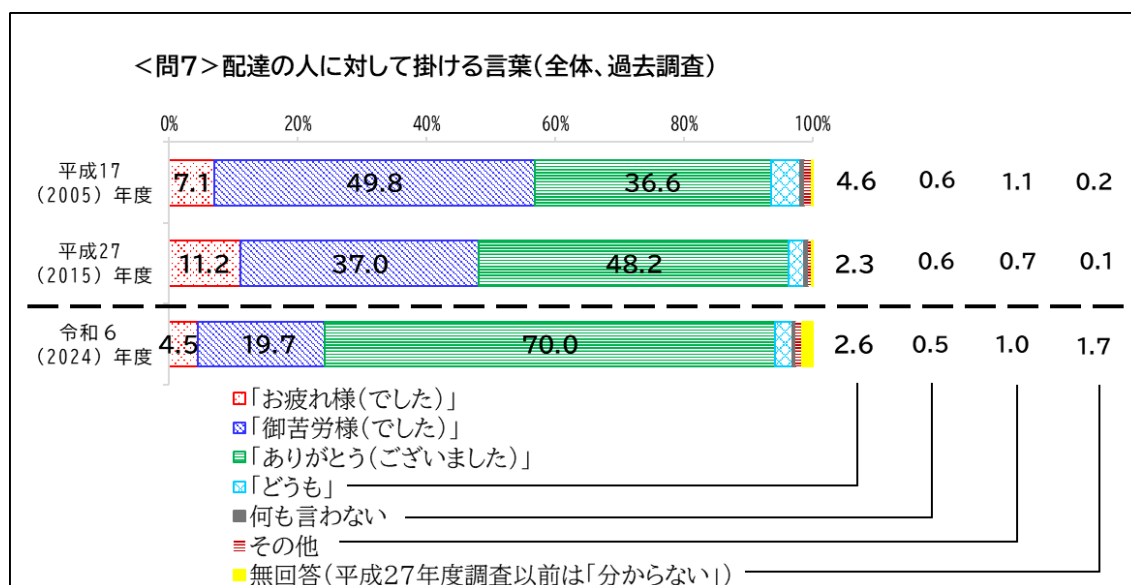
結果は、次のグラフのとおり。（選択肢はグラフに示している。）

「ありがとう（ございました）」を選択した人の割合が最も高く、70.0%となっている。

次いで「御苦勞様（でした）」が19.7%、「お疲れ様（でした）」が4.5%、「どうも」が2.6%となっている。

また、調査方法が変わったため、令和元（2019）年度以前の調査結果については、今回（令和6年度）の調査結果との比較に注意が必要だが、過去の調査結果（平成17、27年度）を参考値として下のグラフに示す。

過去の調査結果においては、「ありがとう（ございました）」の割合が増加傾向にあり、「御苦勞様（でした）」が減少傾向にあった。

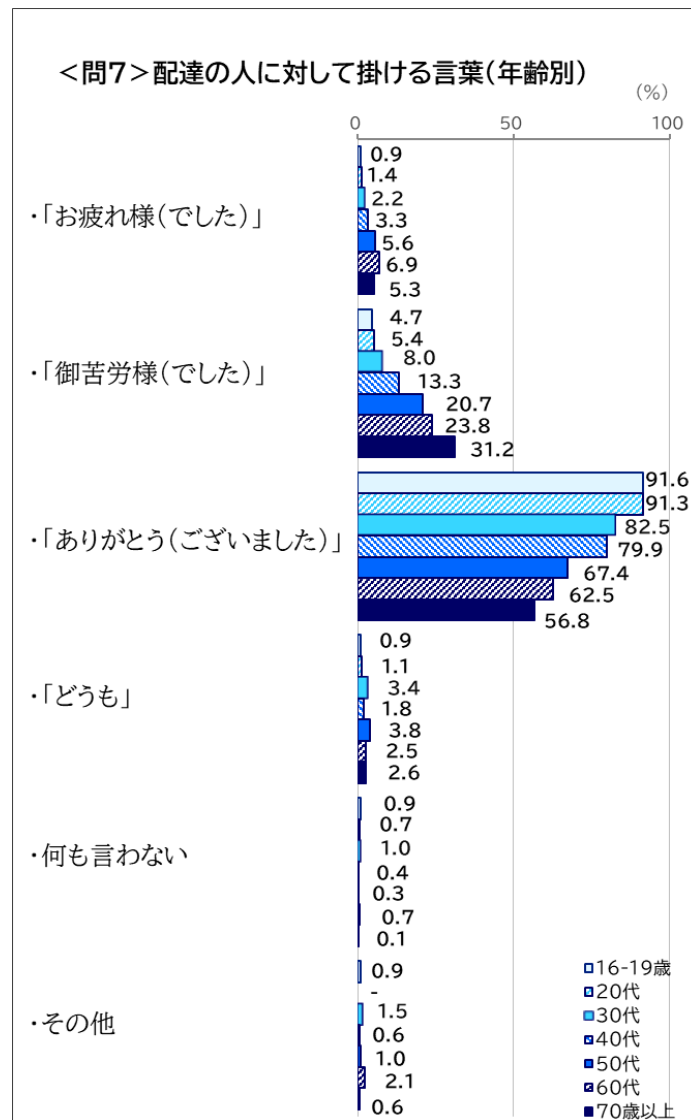


* 調査方法の変更のため、令和元（2019）年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。

〔 問7：年齢別の結果 〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「ありがとう（ございました）」を選択した人の割合は、年齢が上がるに従って、低くなっている。
一方、「御苦労様（でした）」は、年齢が上がるに従って、高くなっている。



<問8> 会社で仕事後に掛ける言葉（＊ p.46）

— 自分より職階が上の人にも下の人にも「お疲れ様（でした）」が7割台 —

〔 問8：質問 〕

あなたが会社員であるとして、同じ会社で同じ仕事を一緒にした人たちに対して、その仕事が終わったときに何という言葉を掛けることが一番多いですか。ここに挙げた（１）と（２）の場合について、それぞれ一つずつ選んでください。（一つずつ回答）

（１）一緒に働いた人が、自分より職階が上の人の場合

（２）一緒に働いた人が、自分より職階が下の人の場合

〔 問8：全体の結果、（参考）過去の調査結果 〕

結果は、次のページのグラフのとおり。（選択肢はグラフに示している。）

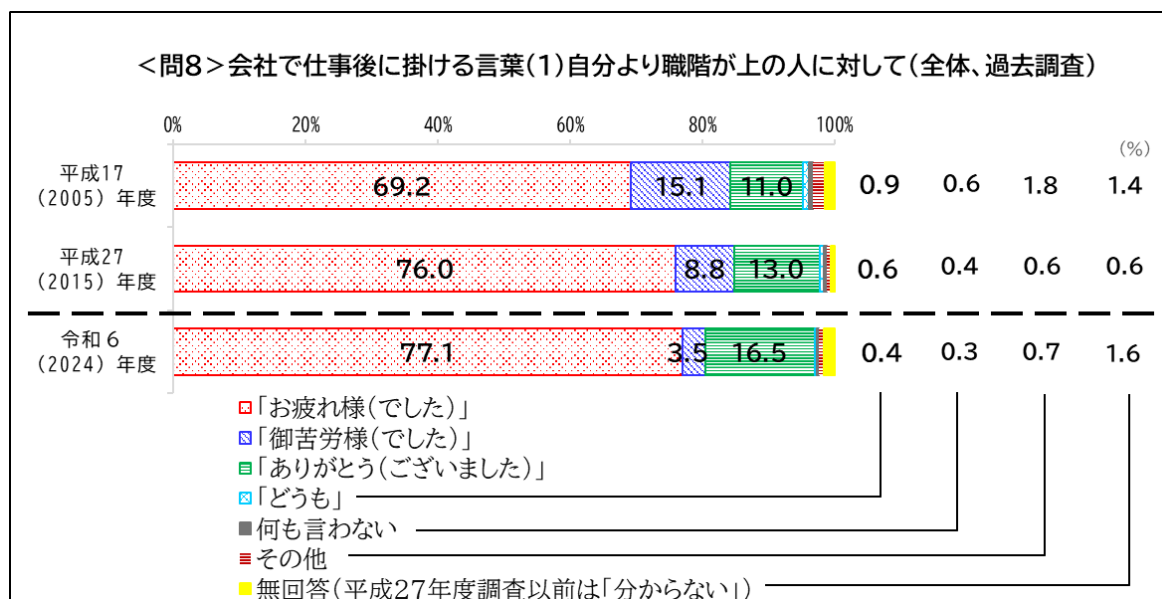
また、調査方法が変わったため、令和元（2019）年度以前の調査結果については、今回（令和6年度）の調査結果との比較に注意が必要だが、過去の調査結果（平成17、27年度）を参考値として下のグラフに示す。

過去の調査結果においては、（１）一緒に働いた人が、自分より職階が上の人の場合も、（２）一緒に働いた人が、自分より職階が下の人の場合も、「お疲れ様（でした）」の割合が増加傾向にあり、「御苦労様（でした）」が減少傾向にあった。

(1)一緒に働いた人が、自分より職階が上の人の場合

「お疲れ様（でした）」を選択した人の割合が最も高く、77.1%となっている。

次いで「ありがとう（ございました）」が16.5%、「御苦労様（でした）」が3.5%、「どうも」が0.4%となっている。

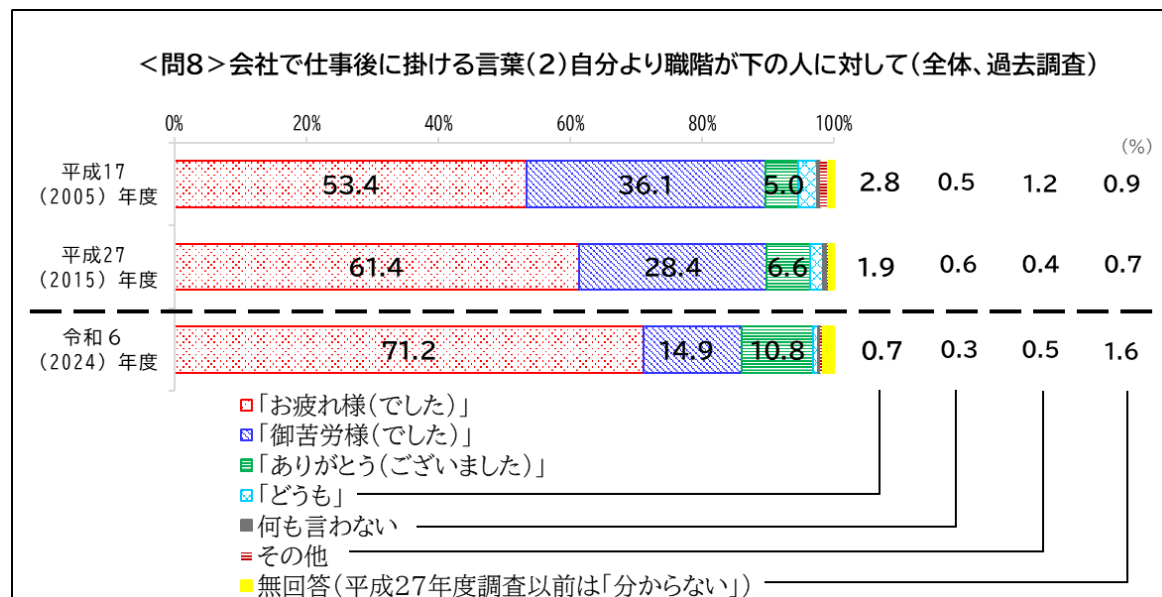


* 調査方法の変更のため、令和元（2019）年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。

(2)一緒に働いた人が、自分より職階が下の人の場合

「お疲れ様（でした）」を選択した人の割合が最も高く、71.2%となっている。

次いで「御苦労様（でした）」が14.9%、「ありがとう（ございました）」が10.8%、「どうも」が0.7%となっている。



* 調査方法の変更のため、令和元（2019）年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。

〔 問8：年齢別の結果 〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

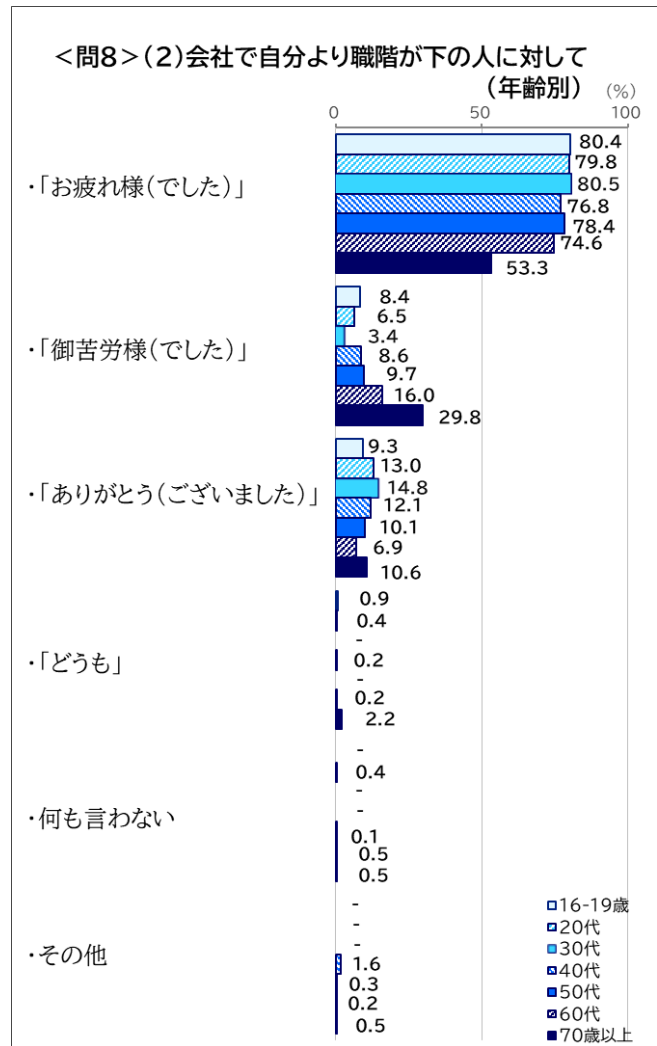
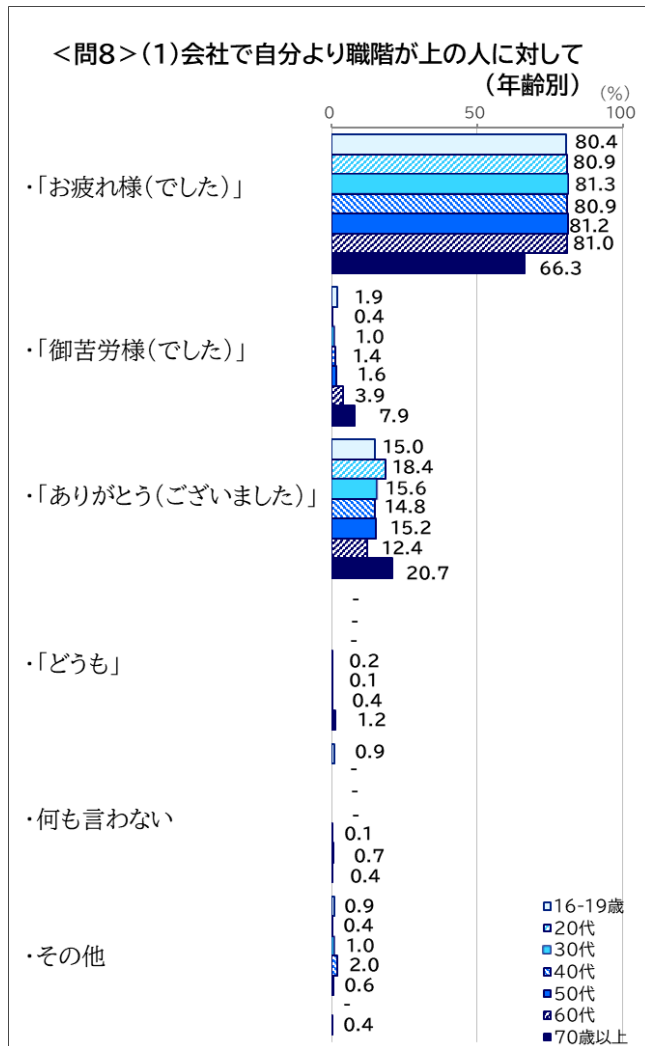
（１）一緒に働いた人が、自分より職階が上の人の場合

「お疲れ様（でした）」を選択した人の割合は、70歳以上で、他の年齢層より低くなっている。

（２）一緒に働いた人が、自分より職階が下の人の場合

「お疲れ様（でした）」を選択した人の割合は、70歳以上で、他の年齢層より低くなっている。

「御苦労様（でした）」を選択した人の割合は、70歳以上で、他の年齢層より高くなっている。



Ⅲ 外来語表記に関する意識

<問9> 外来語や外国語などのカタカナ語の使用に対する印象 (* p.49)

— 「別に何も感じない」が5割弱 —

〔問9：質問〕

日常生活の中で、外来語や外国語などのカタカナ語を交えて話したり書いたりしていることを、あなたは、どちらかと言うと好ましいと感じますか、どちらかと言うと好ましくないと感じますか。それとも、別に何も感じないですか。（一つ回答）

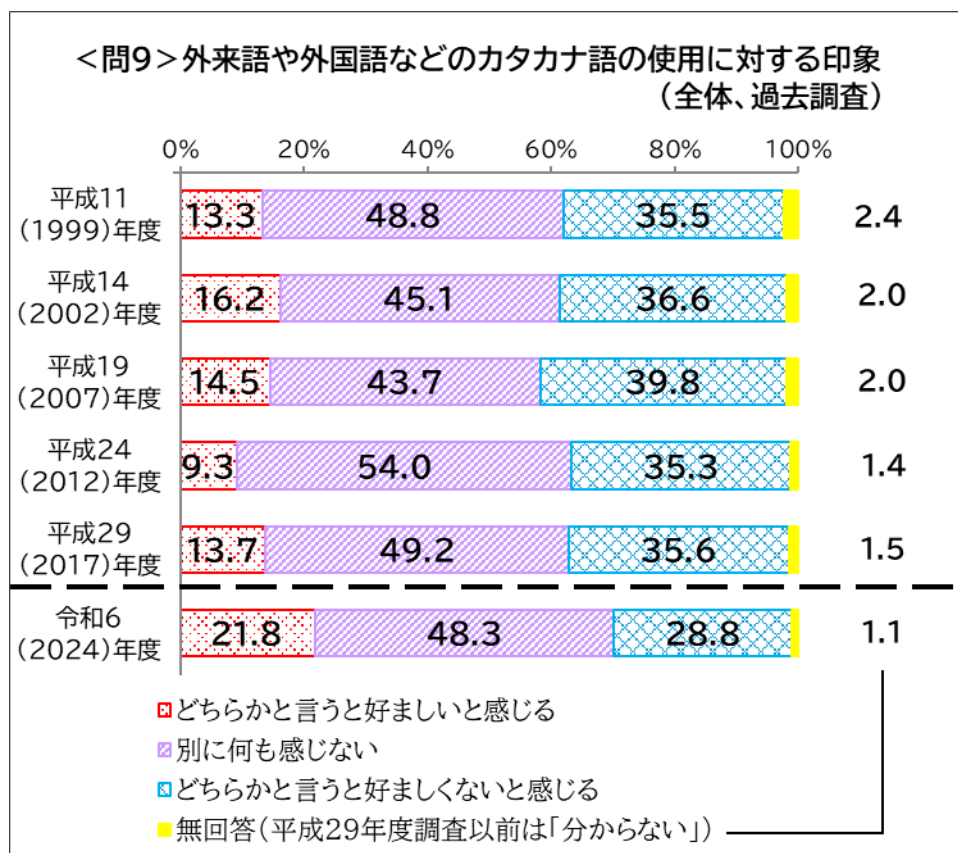
〔問9：全体の結果、(参考) 過去の調査結果〕

結果は、次のグラフのとおり。（選択肢はグラフに示している。）

「どちらかと言うと好ましいと感じる」を選択した人の割合が21.8%となっている。一方、「どちらかと言うと好ましくないと感じる」は28.8%となっている。また、「別に何も感じない」は48.3%となっている。

また、調査方法が変わったため、令和元（2019）年度以前の調査結果については、今回（令和6年度）の調査結果との比較に注意が必要だが、過去の調査結果（平成11、14、19、24、29年度）を参考値として下のグラフに示す。

過去の調査結果においては、「どちらかと言うと好ましいと感じる」が約1割～1割台半ばであったが、今回調査では2割強となっている。「どちらかと言うと好ましくないと感じる」は、過去調査においては3割台後半であったが、今回調査では2割台後半となっている。



* 調査方法の変更のため、令和元（2019）年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。

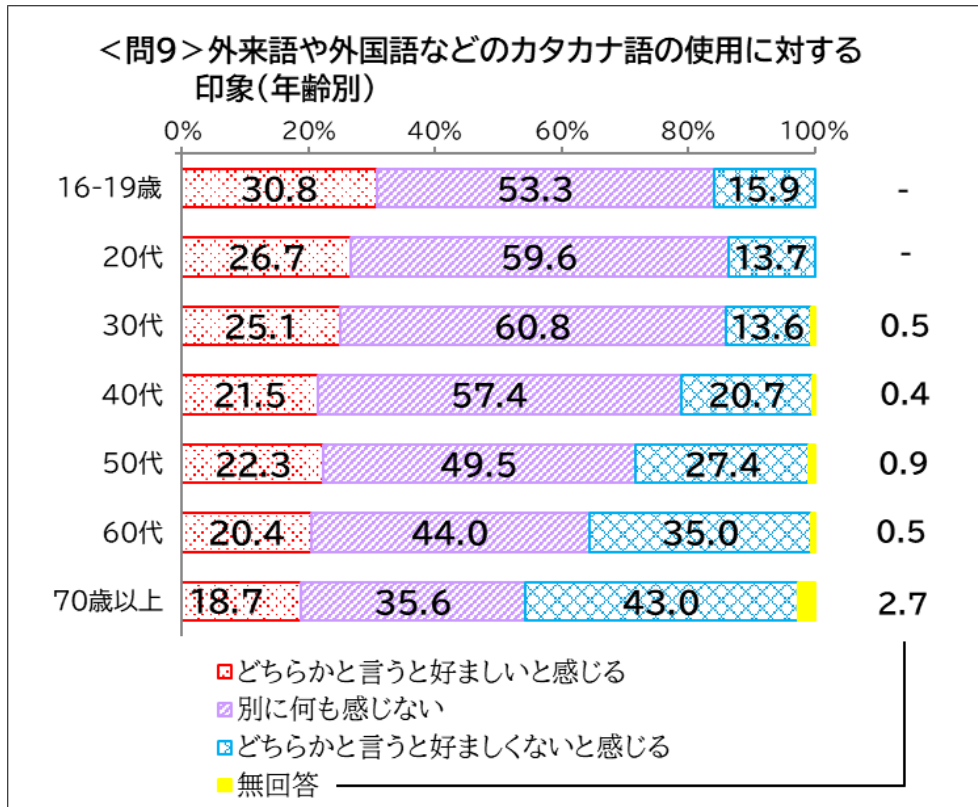
〔 問9：年齢別の結果 〕

年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

「どちらかと言うと好ましいと感じる」を選択した人の割合は、年齢が上がるに従って、低くなる傾向にある。

「どちらかと言うと好ましくないと感じる」は、60代以上で、他の年齢層より高くなっている。

「別に何も感じない」は、20～40代で、他の年齢層より高くなっている。



<問9付問1> 外来語や外国語などのカタカナ語の使用が好ましいと感じる理由

(※ p. 52)

— 「カタカナ語でなければ表せない物事があるから」が8割—

〔問9付問1：質問〕

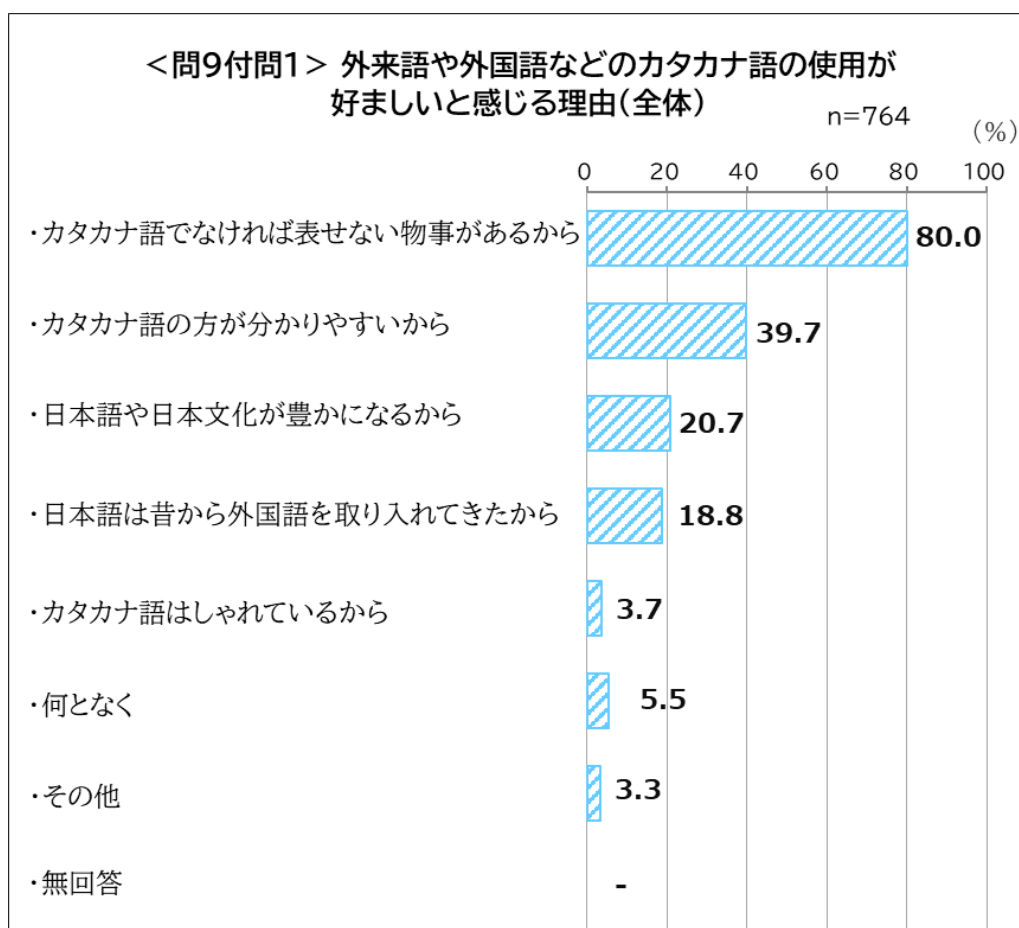
(問9で「どちらかと言うと好ましいと感じる」と答えた人(全体の21.8%)に対して)
好ましいと感じるのは、どのような理由からですか。(幾つでも回答)

〔問9付問1：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

「カタカナ語でなければ表せない物事があるから」を選択した人の割合が最も高く、80.0%となっている。

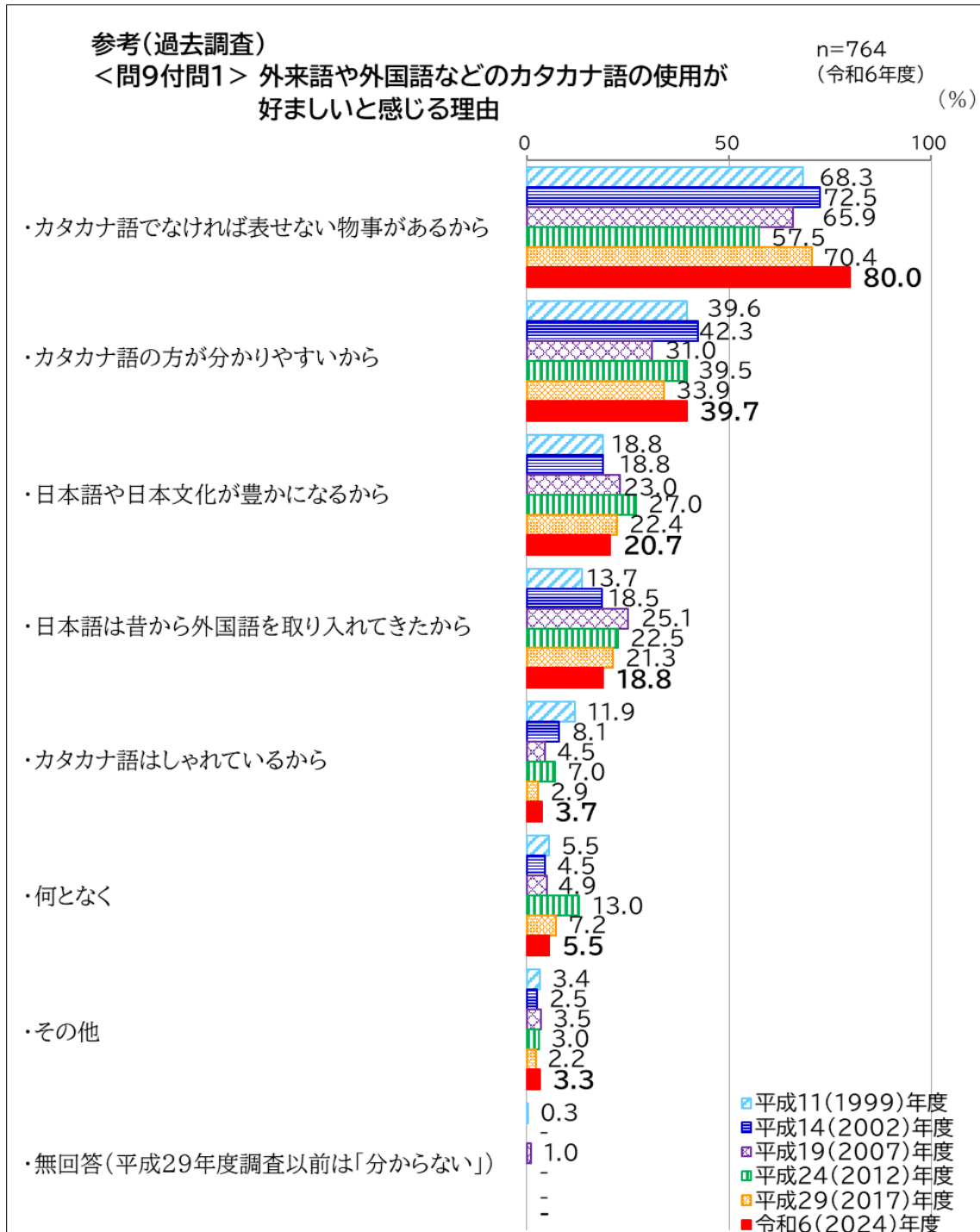
次いで「カタカナ語の方が分かりやすいから」が39.7%、「日本語や日本文化が豊かになるから」が20.7%、「日本語は昔から外国語を取り入れてきたから」が18.8%となっている。



〔（参考）問9付問1：過去の調査結果〕

調査方法が変わったため、令和元（2019）年度以前の調査結果については、今回（令和6年度）の調査結果との比較に注意が必要だが、過去の調査結果（平成11、14、19、24、29年度）を参考値として下のグラフに示す。

過去の調査結果においては、「カタカナ語でなければ表せない物事があるから」の割合が平成24年度調査で減少したが、その後、増加している。



* 調査方法の変更のため、令和元（2019）年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。

<問9付問2> 外来語や外国語などのカタカナ語の使用が好ましくないと感じる理由

(※ p.54)

— 「カタカナ語は分かりにくいから」が6割台半ば—

〔問9付問2：質問〕

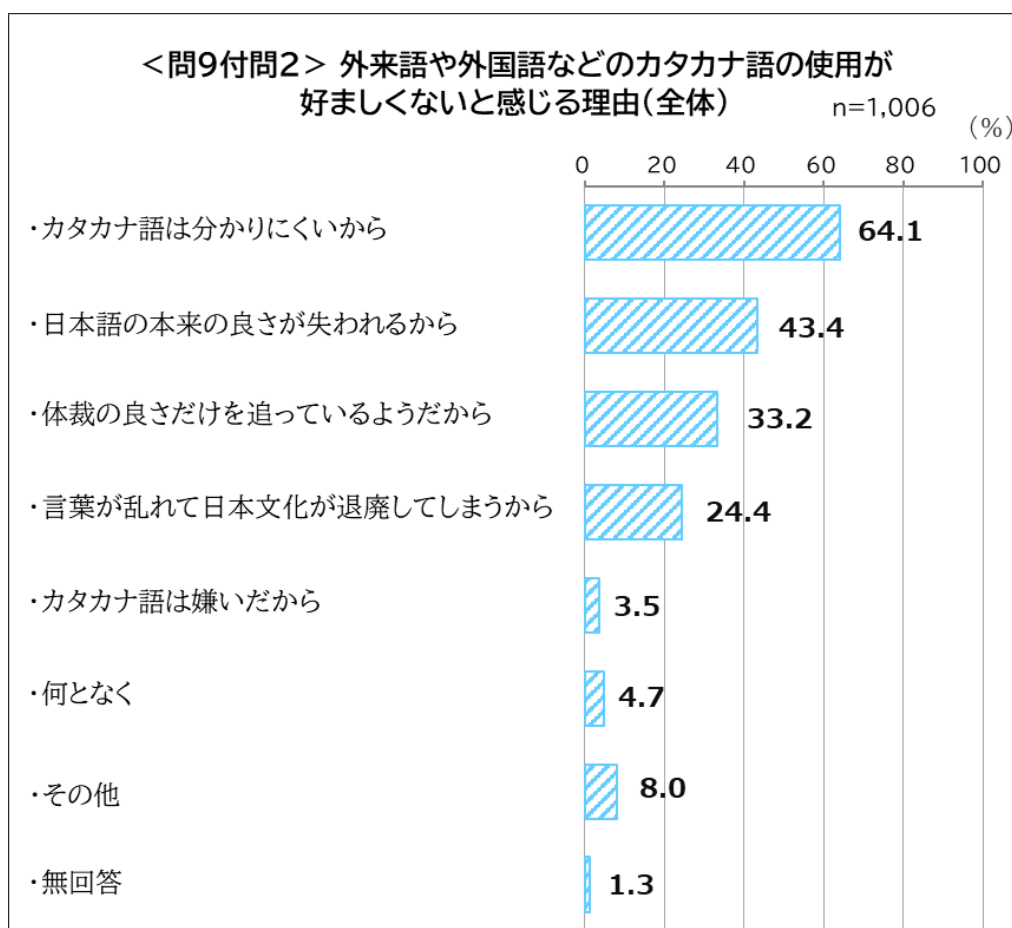
(問9で「どちらかと言うと好ましくないと感じる」と答えた人(全体の28.8%)に対して)
好ましくないと感じるのは、どのような理由からですか。(幾つでも回答)

〔問9付問2：全体の結果〕

結果は次のグラフのとおり。(選択肢はグラフに示している。)

「カタカナ語は分かりにくいから」を選択した人の割合が最も高く、64.1%となっている。

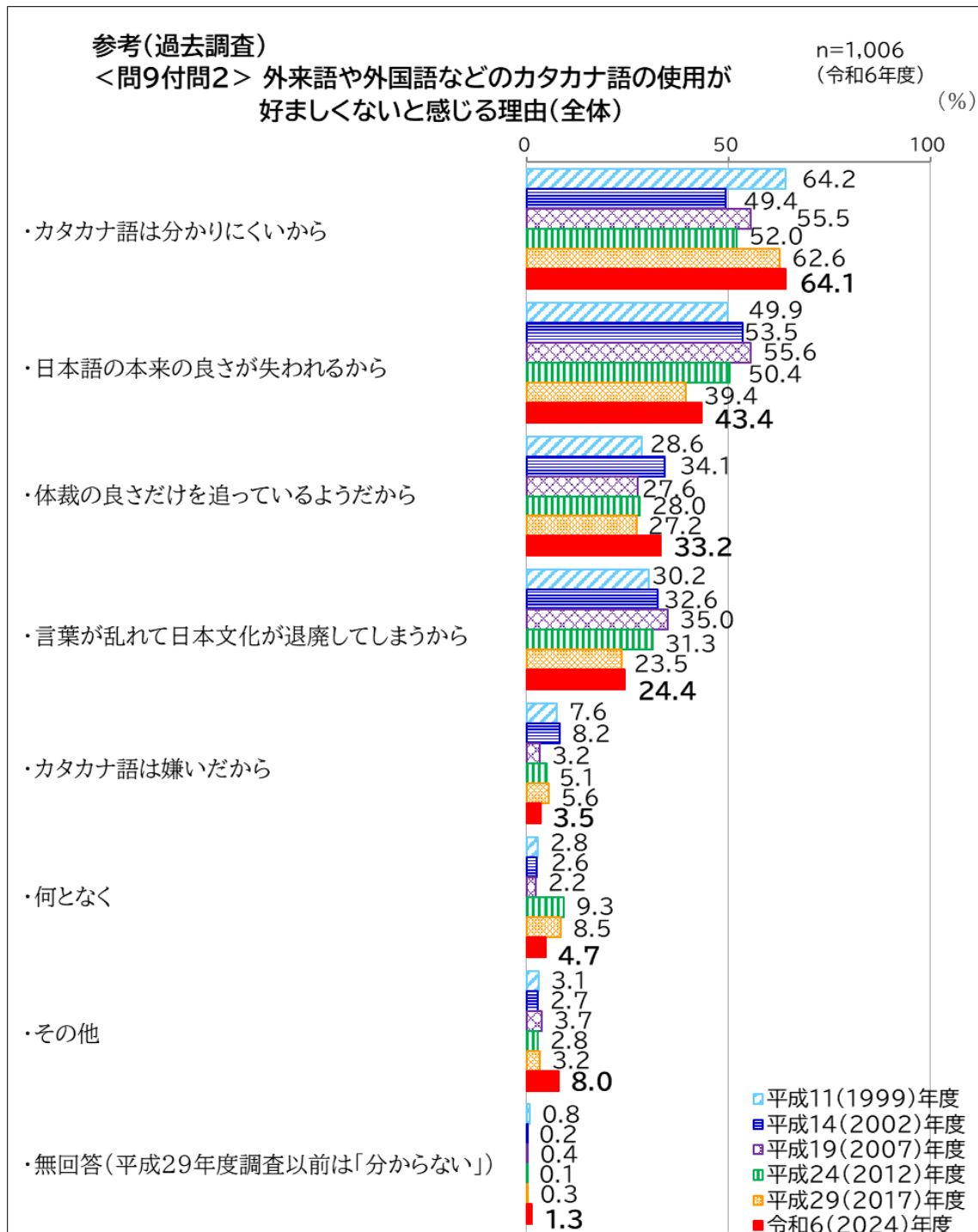
次いで「日本語の本来の良さが失われるから」が43.4%、「体裁の良さだけを追っているようだから」が33.2%、「言葉が乱れて日本文化が退廃してしまうから」が24.4%となっている。



〔（参考）問9付問2：過去の調査結果〕

調査方法が変わったため、令和元（2019）年度以前の調査結果については、今回（令和6年度）の調査結果との比較に注意が必要だが、過去の調査結果（平成11、14、19、24、29年度）を参考値として下のグラフに示す。

過去の調査結果においては、「カタカナ語は分かりにくいから」の割合が平成14年度から24年度調査で減少していたが、その後増加している。一方、「日本語の本来の良さが失われるから」「言葉が乱れて日本文化が退廃してしまうから」は平成29年度調査で減少している。



* 調査方法の変更のため、令和元（2019）年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。

<問 12> 外来語の表記 (* p.64)

— 「エンジェル」「フィルム」等の割合が「エンゼル」「フィルム」等より高い —

〔 問 12：質問 〕

あなたは、次の（１）～（１５）の言葉を書くとしたら、次のうちのどちらの書き方にしますか。あなたのお考えに近いものをそれぞれ一つずつ選んでください。（一つずつ回答）

- | | | | |
|------|--------------|---|---------------|
| （１） | （ア）エンゼル | ／ | （イ）エンジェル |
| （２） | （ア）フィルム | ／ | （イ）ファイルム |
| （３） | （ア）ウェア | ／ | （イ）ウエア |
| （４） | （ア）サンドイッチ | ／ | （イ）サンドウィッチ |
| （５） | （ア）クォーツ | ／ | （イ）クオーツ |
| （６） | （ア）ライブチヒ | ／ | （イ）ライブツイヒ |
| （７） | （ア）ヒンズー | ／ | （イ）ヒンドゥー |
| （８） | （ア）ボーカル | ／ | （イ）ヴォーカル |
| （９） | （ア）チューバ | ／ | （イ）チューバ |
| （１０） | （ア）エンターテイメント | ／ | （イ）エンターテインメント |
| （１１） | （ア）スパゲッティ | ／ | （イ）スパゲティ |
| （１２） | （ア）バースデー | ／ | （イ）バースデイ |
| （１３） | （ア）セキュリティー | ／ | （イ）セキュリティ |
| （１４） | （ア）リタイヤ | ／ | （イ）リタイア |
| （１５） | （ア）エクスプレス | ／ | （イ）エクスプレス |

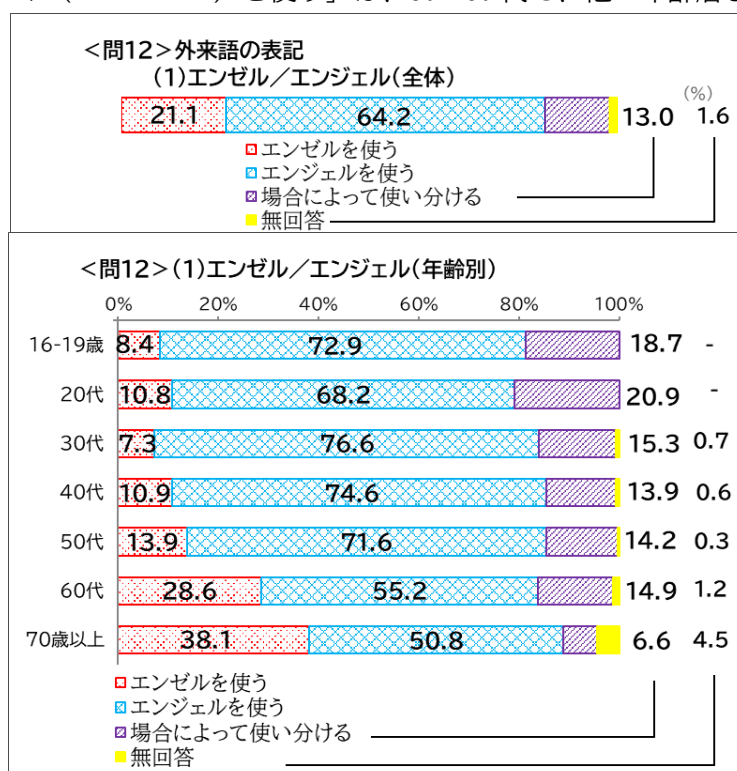
〔 問 12：全体の結果・年齢別の結果 〕

結果はそれぞれ以下のグラフのとおり。（選択肢はグラフに示している。）

- （１） （ア）エンゼル ／ （イ）エンジェル

「ア（エンゼル）を使う」と答えた人が21.1%、「イ（エンジェル）を使う」と答えた人が64.2%となっている。

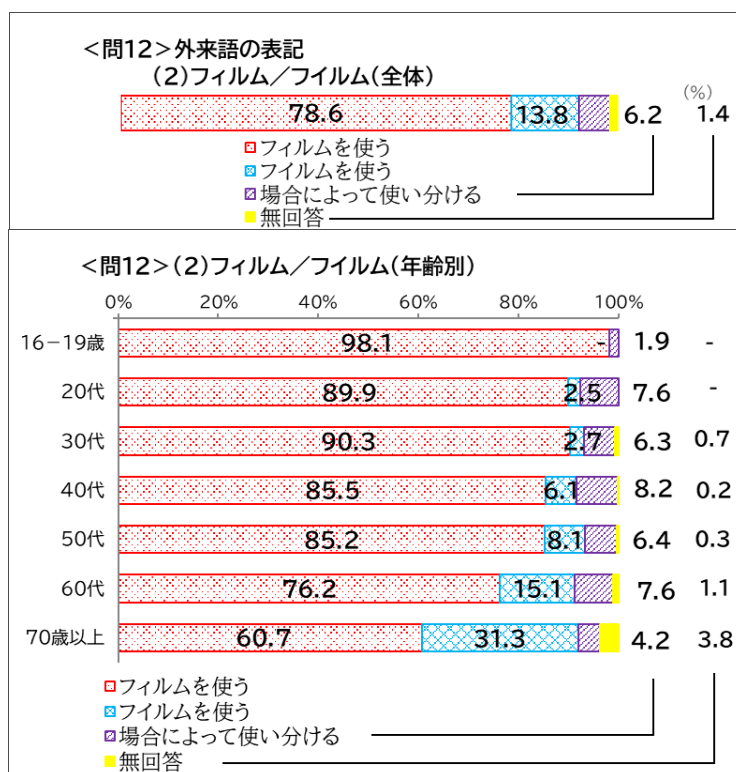
年齢別に見ると、「ア（エンゼル）を使う」と答えた人の割合は、60代以上で、他の年齢層より高くなっている。一方、「イ（エンジェル）を使う」は、30～50代で、他の年齢層より高くなっている。



(2) (ア) フィルム / (イ) フィルム

「ア（フィルム）を使う」と答えた人が78.6%、「イ（フィルム）を使う」と答えた人が13.8%となっている。

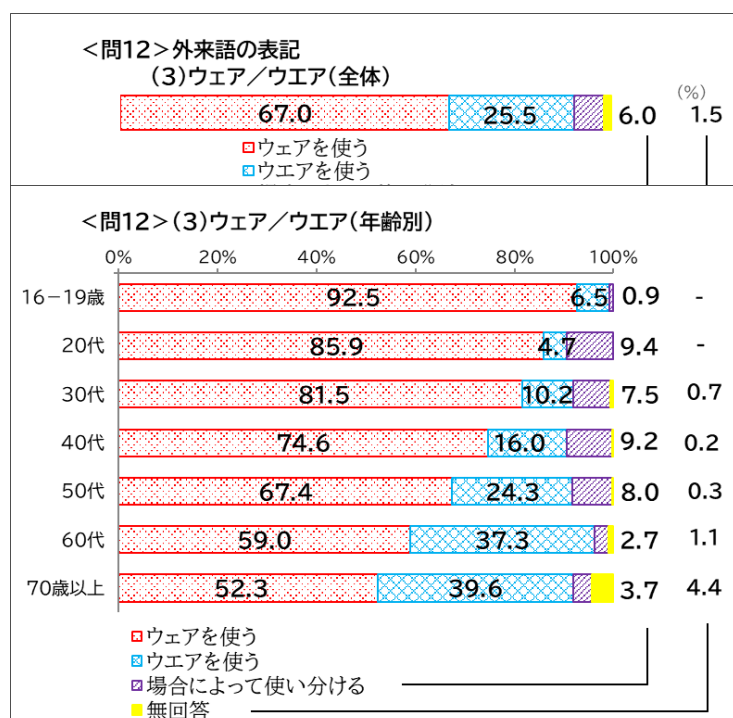
年齢別に見ると、「ア（フィルム）を使う」と答えた人の割合は、年齢が上がるに従って、低くなる傾向にある。一方、「イ（フィルム）を使う」と答えた人の割合は、年齢が上がるに従って、高くなる傾向にある。



(3) (ア) ウェア / (イ) ウエア

「ア（ウェア）を使う」と答えた67.0人が%、「イ（ウェア）を使う」と答えた人が25.5%となっている。

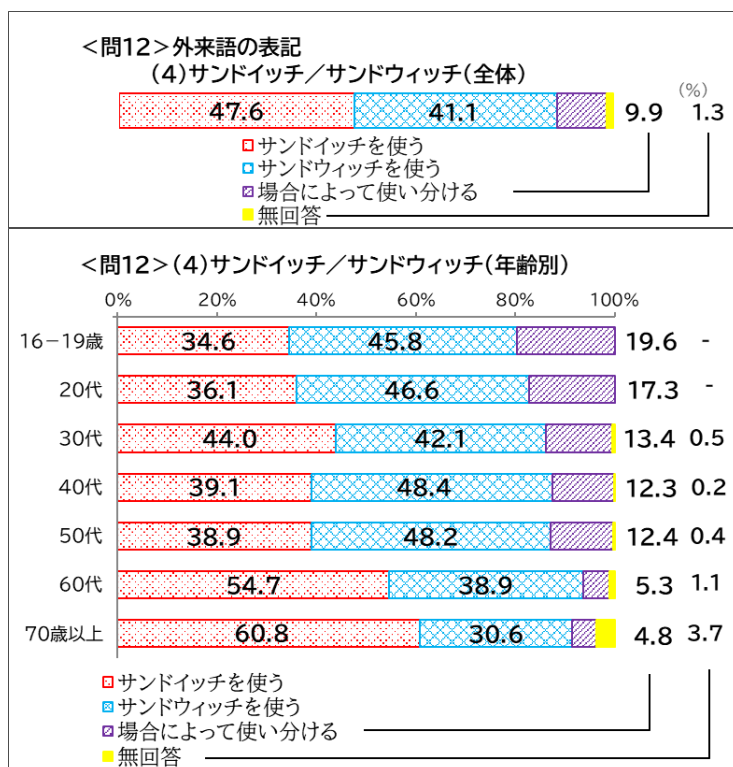
年齢別に見ると、「ア（ウェア）を使う」と答えた人の割合は、年齢が上がるに従って、低くなっている。一方、「イ（ウェア）を使う」と答えた人の割合は、年齢が上がるに従って、高くなる傾向にある。



(4) (ア) サンドイッチ / (イ) サンドウィッチ

「ア (サンドイッチ) を使う」と答えた人が47.6%、「イ (サンドウィッチ) を使う」と答えた人が41.1%となっている。

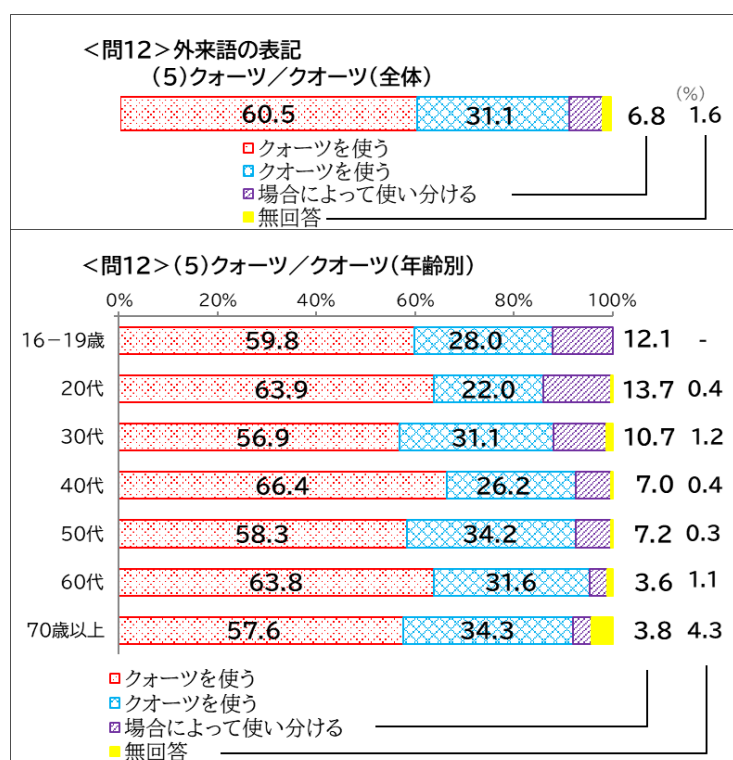
年齢別に見ると、「ア (サンドイッチ) を使う」と答えた人の割合は、60代以上で、他の年齢層より高くなっている。一方、「イ (サンドウィッチ) を使う」は、70歳以上で、他の年齢層より低くなっている。



(5) (ア) クォーツ / (イ) クォーツ

「ア (クォーツ) を使う」と答えた人が60.5%、「イ (クォーツ) を使う」と答えた人が31.1%となっている。

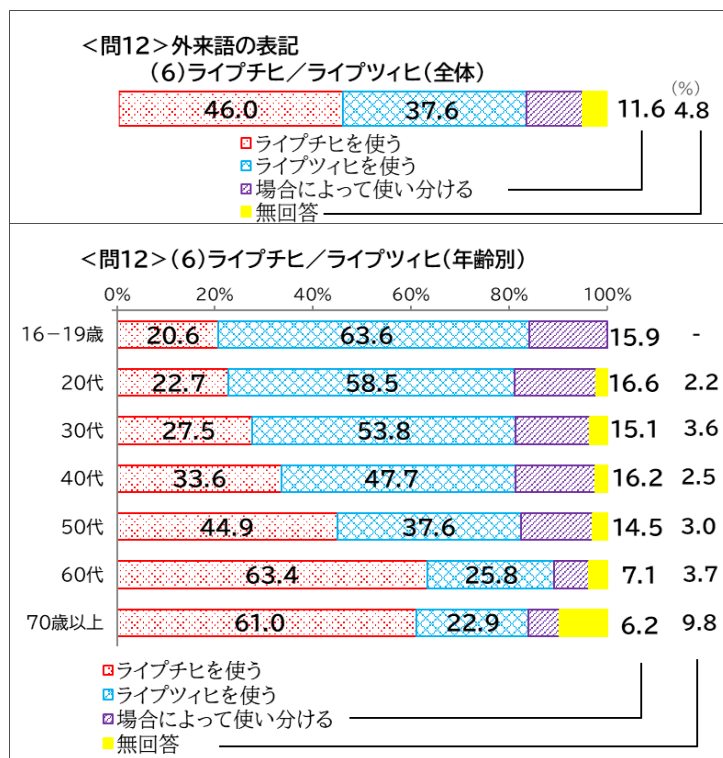
年齢別に見ると、「ア (クォーツ) を使う」と答えた人の割合は、40代で、他の年齢層より高くなっている。一方、「イ (クォーツ)」は、20代で、他の年齢層より低くなっている。



(6) (ア) ライプチヒ / (イ) ライプツィヒ

「ア(ライプチヒ)を使う」と答えた人が46.0%、「イ(ライプツィヒ)を使う」と答えた人が37.6%となっている。

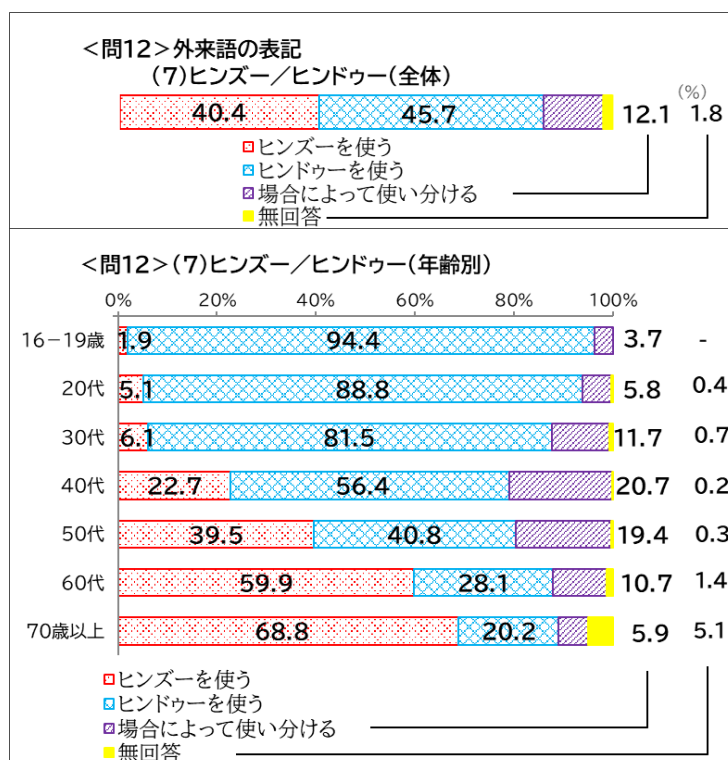
年齢別に見ると、「ア(ライプチヒ)を使う」と答えた人の割合は、年齢が上がるに従って、高くなる傾向にある。一方、「イ(ライプツィヒ)を使う」は、年齢が上がるに従って、低くなっている。



(7) (ア) ヒンズー / (イ) ヒンドゥー

「ア(ヒンズー)を使う」と答えた人が40.4%、「イ(ヒンドゥー)を使う」と答えた人が45.7%となっている。

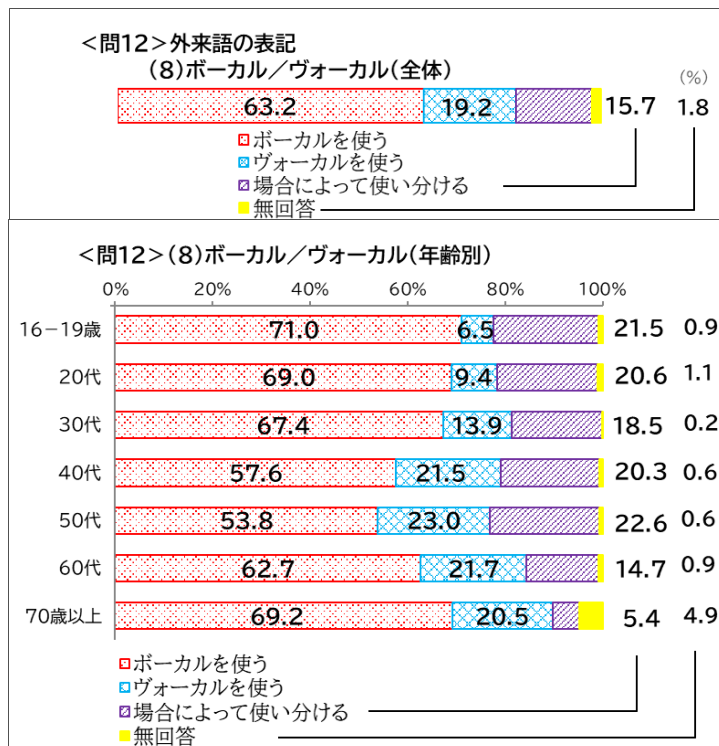
年齢別に見ると、「イ(ヒンドゥー)を使う」と答えた人の割合は、30代以下で、8割~9割台となっている。また、「ア(ヒンズー)を使う」は、年齢が上がるに従って、高くなる傾向にある。



(8) (ア) ボーカル / (イ) ヴォーカル

「ア (ボーカル) を使う」と答えた人が 63.2%、「イ (ヴォーカル) を使う」と答えた人が 19.2%となっている。

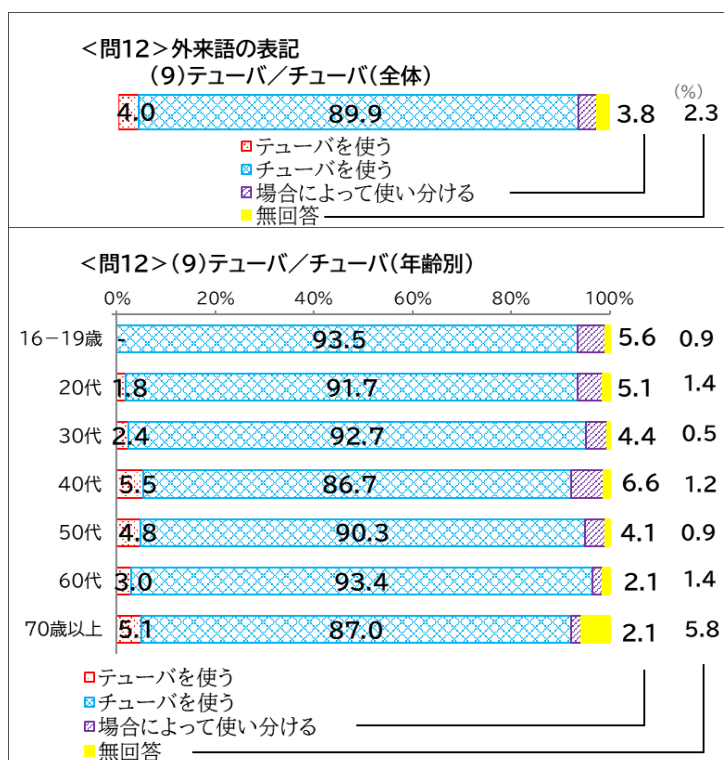
年齢別に見ると、「ア (ボーカル) を使う」と答えた人の割合は、20 代以下と 70 歳以上で、他の年齢層より高くなっている。一方、「イ (ヴォーカル) を使う」は、30 代以下で、他の年齢層より低くなっている。



(9) (ア) テューバ / (イ) チューバ

「アを使う」と答えた人が 4.0%、「イ (チューバ) を使う」と答えた人が 89.9%となっている。

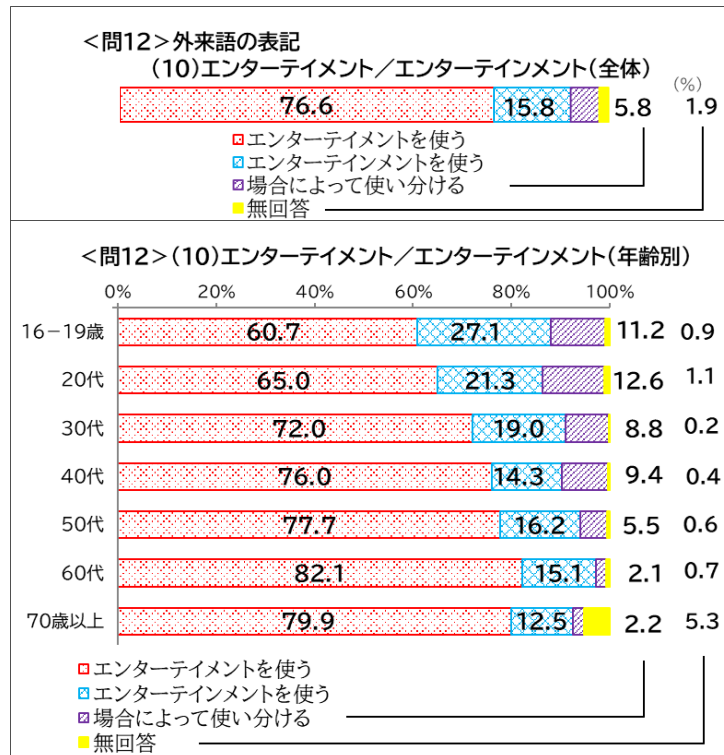
年齢別に見ると、「イ (チューバ) を使う」と答えた人の割合は、全ての年齢層で 8～9 割台となっている。



(10) (ア) エンターテイメント / (イ) エンターテインメント

「ア (エンターテイメント) を使う」と答えた人が 76.6%、「イ (エンターテインメント) を使う」と答えた人が 15.8%となっている。

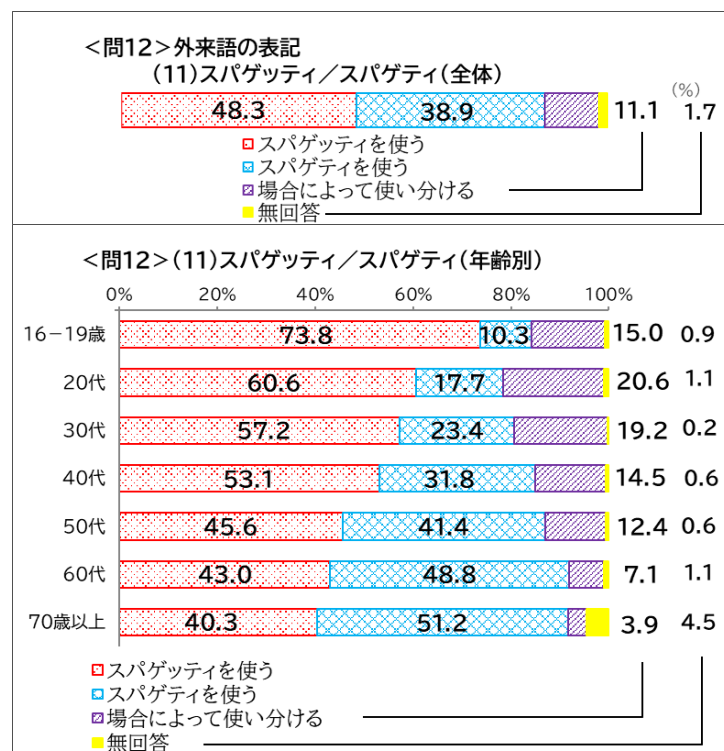
年齢別に見ると、「ア (エンターテイメント) を使う」と答えた人の割合は、年齢が上がるに従って、高くなる傾向にある。一方、「イ (エンターテインメント) を使う」は、年齢が上がるに従って、低くなっている。



(11) (ア) スパゲッティ / (イ) スパゲティ

「ア (スパゲッティ) を使う」と答えた人が 48.3%、「イ (スパゲティ) を使う」と答えた人が 38.9%となっている。

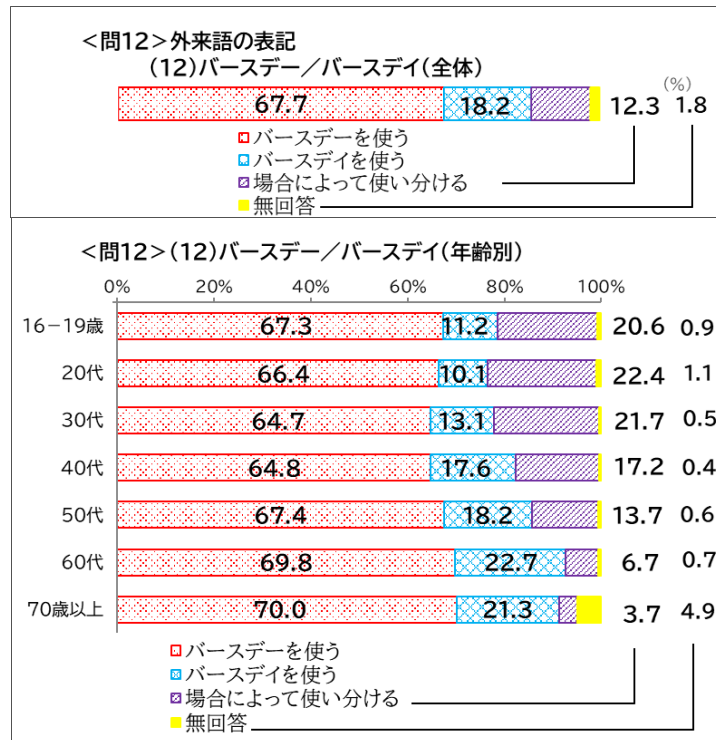
年齢別に見ると、「ア (スパゲッティ) を使う」と答えた人の割合は、年齢が上がるに従って、低くなっている。一方、「イ (スパゲティ) を使う」は、年齢が上がるに従って、高くなっている。



(12) (ア) バースデー / (イ) バースデイ

「ア（バースデー）」を使う」と答えた人が67.7%、「イ（バースデイ）」を使う」と答えた人が18.2%となっている。

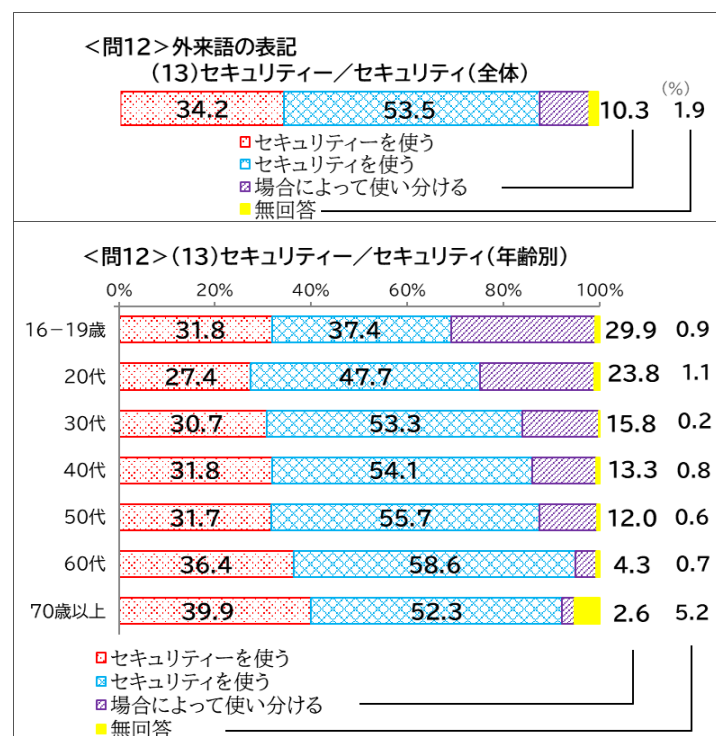
年齢別に見ると、「ア（バースデー）」を使う」と答えた人の割合は、全ての年齢層で6割台～7割となっている。一方、「イ（バースデイ）」を使う」は、30代以下で、他の年齢層より低くなっている。



(13) (ア) セキュリティー / (イ) セキュリティ

「ア（セキュリティー）」を使う」と答えた人が34.2%、「イ（セキュリティ）」を使う」と答えた人が53.5%となっている。

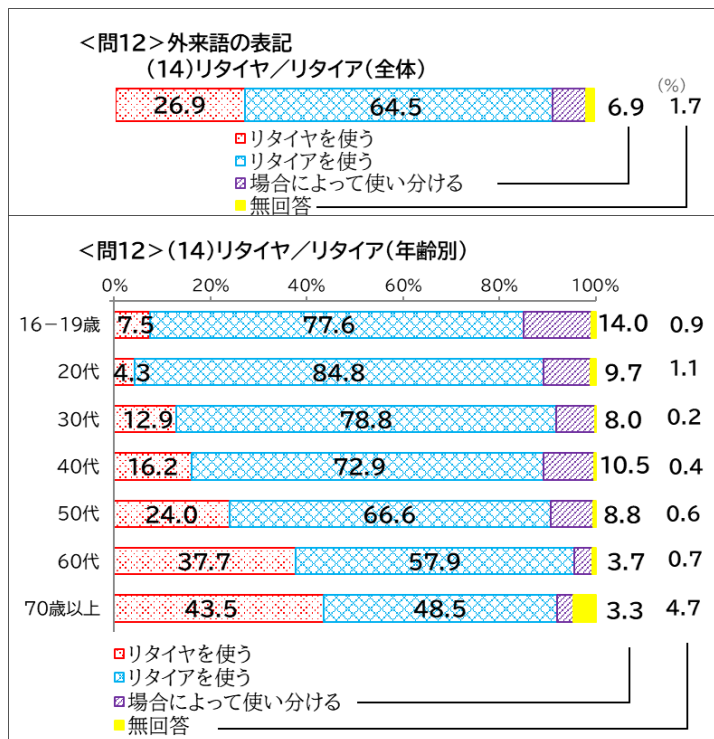
年齢別に見ると、「ア（セキュリティー）」を使う」と答えた人の割合は、20代で、他の年齢層より低くなっている。一方、「イ（セキュリティ）」を使う」は、20代以下で、他の年齢層より低くなっている。



(14) (ア) リタイヤ / (イ) リタイア

「ア (リタイヤ) を使う」と答えた人が 26.9%、「イ (リタイア) を使う」と答えた人が 64.5%となっている。

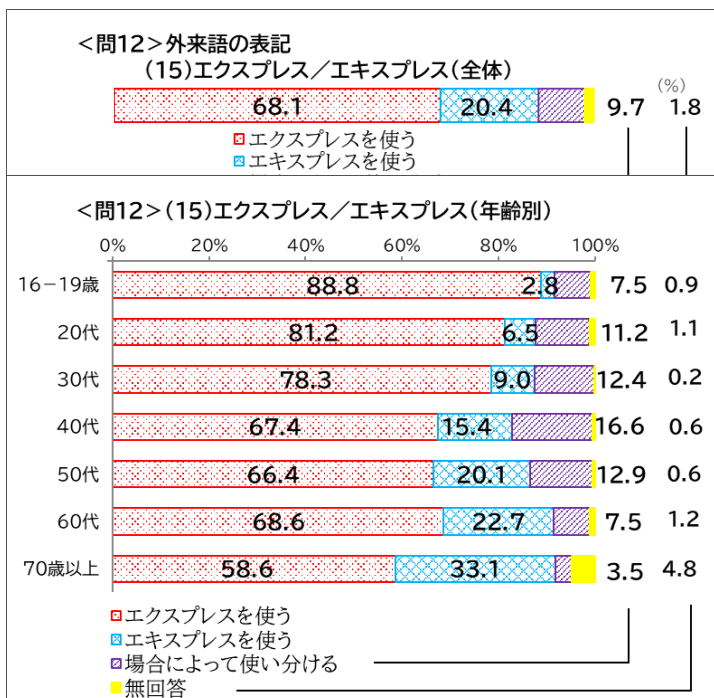
年齢別に見ると、「ア (リタイヤ) を使う」と答えた人の割合は、年齢が上がるに従って、高くなる傾向にある。一方、「イ (リタイア) を使う」は、年齢が上がるに従って、高くなる傾向にある。



(15) (ア) エクスプレス / (イ) エキスプレス

「ア (エクスプレス) を使う」と答えた人が 68.1%、「イ (エキスプレス) を使う」と答えた人が 20.4%となっている。

年齢別に見ると、「ア (エクスプレス) を使う」と答えた人の割合は、年齢が上がるに従って、高くなる傾向にある。一方、「イ (エキスプレス) を使う」は、年齢が上がるに従って、高くなる傾向にある。



IV 言葉遣いに対する印象や慣用句等の理解

<問 14> 使うことがある言葉か（「映（ば）える」「エモい」等）（* p.76）

—「家電（いえでん）」「映（ば）える」は「使うことがある」が5割台 —

〔 問 14：質問 〕

あなたは、ここに挙げた（１）～（５）の下線部分の言い方を使うことがありますか。それとも、ありませんか。（一つずつ回答）

- （１）「インターネットの有料サービスを利用する」といった意味で「課金する」と言う
- （２）「インターネットで商品などを買う」といった意味で「ポチる」と言う
- （３）「写真に写すときなどにきれいでおしゃれに見える」といった意味で「映（ば）える」と言う
- （４）「心が揺さぶられる感じがする」といった意味で「エモい」と言う
- （５）「自宅にある固定電話」といった意味で「家電（いえでん）」と言う

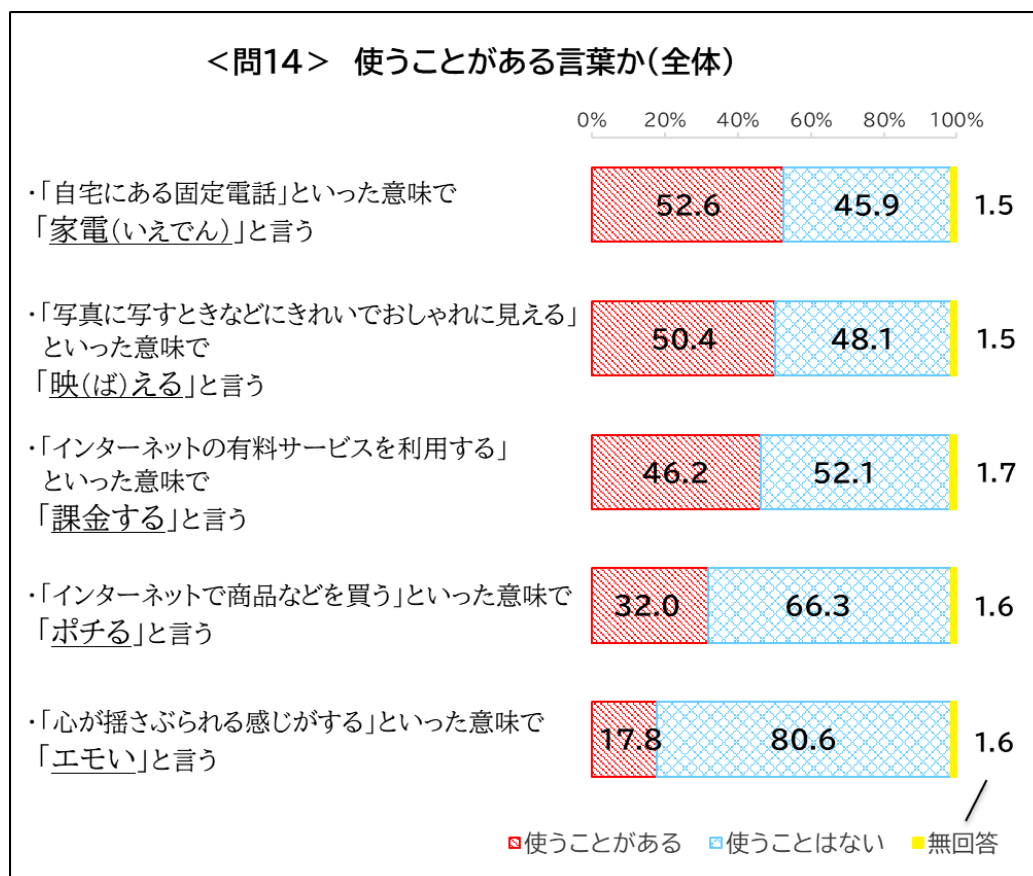
※ 調査した五つの言葉は、情報機器に関わる言葉や、SNSを中心に使われるようになった言葉で、新しい意味や使い方が辞書に記載されてきたものを取り上げた。

〔 問 14：全体の結果 〕

結果は次のページのグラフのとおり。（選択肢はグラフに示している。）

下線部の言い方を「使うことがある」と回答した人の割合は、「家電（いえでん）」が 52.6%、「映（ば）える」が 50.4%、「課金する」が 46.2%、「ポチる」が 32.0%、「エモい」が 17.8%となっている。

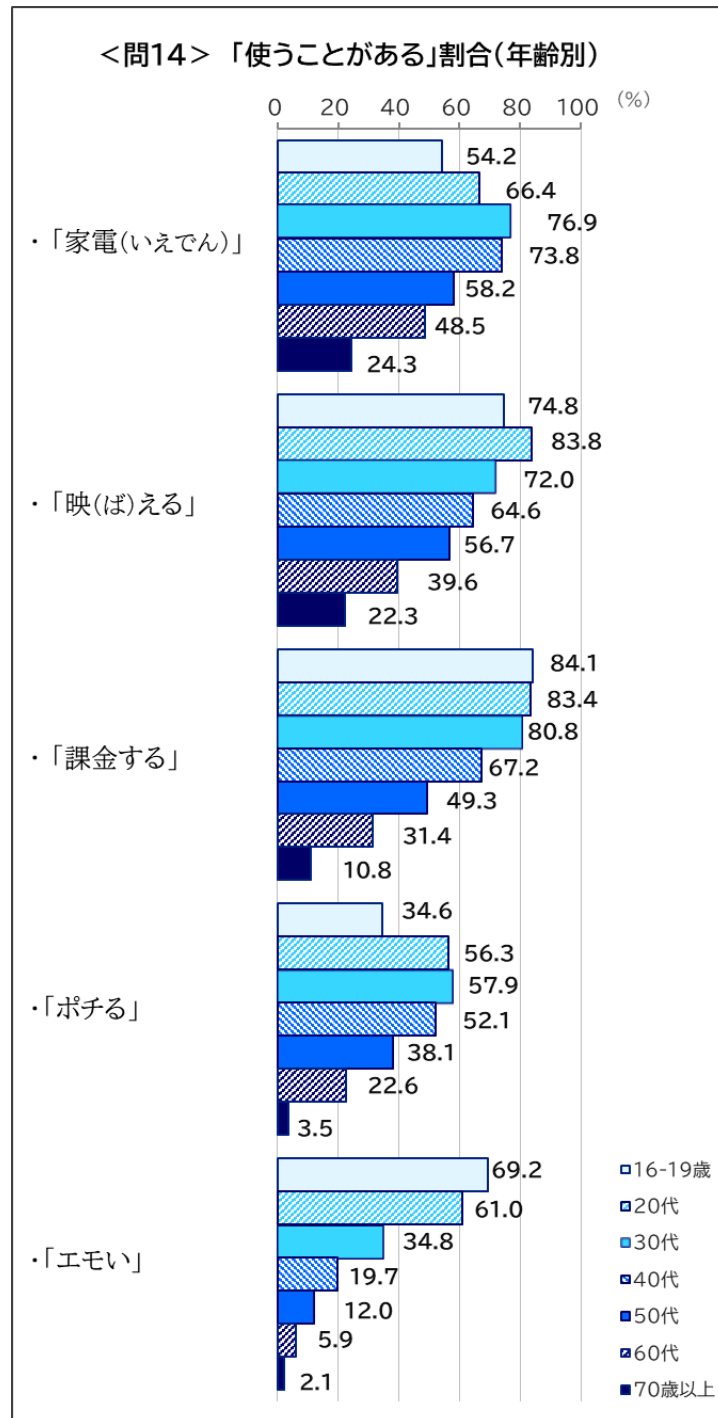
一方、「使うことはない」の割合は、「エモい」が 80.6%、「ポチる」が 66.3%、「課金する」が 52.1%、「映（ば）える」が 48.1%、「家電（いえでん）」が 45.9%となっている。



〔 問 14：年齢別の結果 〕

年齢別に「使うことがある」を選択した人の割合を見ると、次のグラフのとおり。

どの言い方においても、60代以上では、「使うことがある」を選択した人の割合が、他の年齢層より低い傾向にある。また、「課金する」「エモい」は、おおむね年齢が上がるに従って、低くなっている。



<問 15> 気になる言葉か（「映（ば）える」「エモい」等）（＊ p.80）

—「家電（いえでん）」「映（ば）える」「課金する」は「気にならない」が8割台 —

〔 問 15：質問 〕

ここに挙げた（１）～（５）の下線部分の言い方をほかの人が使うのが気になりますか。それとも、気になりませんか。（一つずつ回答）

- （１）「インターネットの有料サービスを利用する」といった意味で「課金する」と言う
- （２）「インターネットで商品などを買う」といった意味で「ポチる」と言う
- （３）「写真に写すときなどにきれいでおしゃれに見える」といった意味で「映（ば）える」と言う
- （４）「心が揺さぶられる感じがする」といった意味で「エモい」と言う
- （５）「自宅にある固定電話」といった意味で「家電（いえでん）」と言う

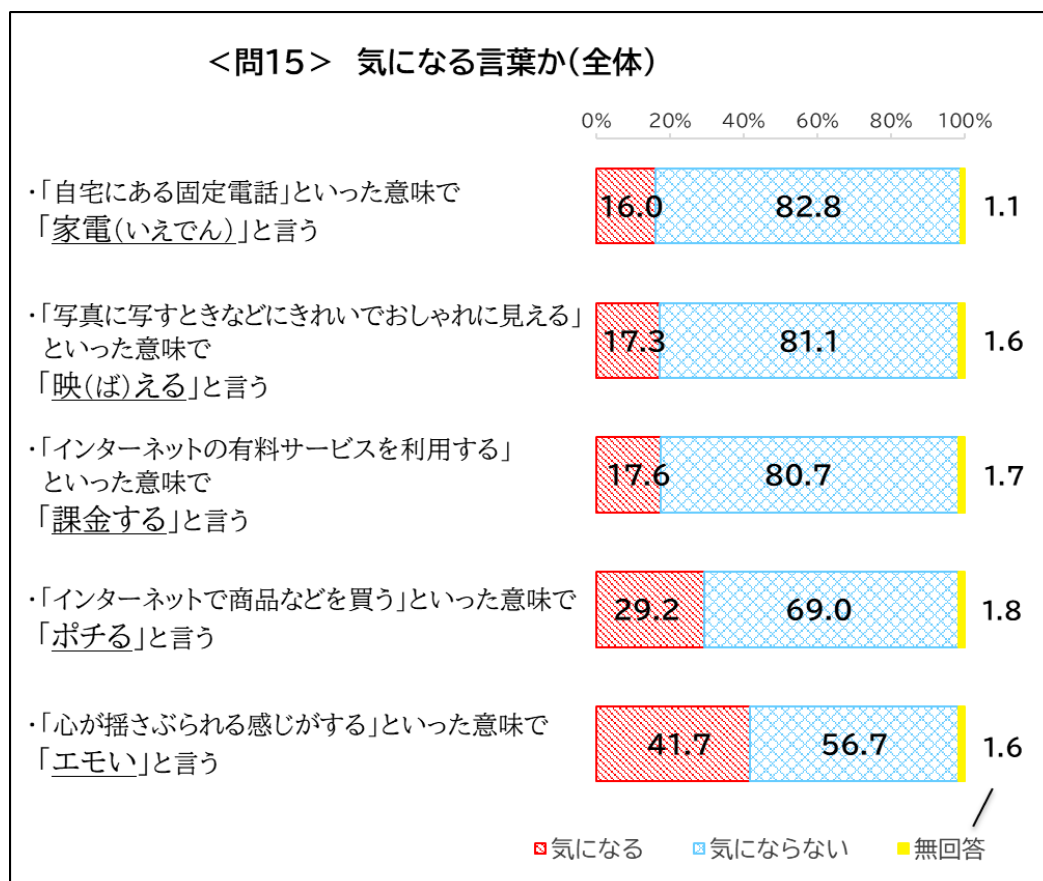
※ 調査した五つの言葉は、情報機器に関わる言葉や、SNSを中心に使われるようになった言葉で、新しい意味や使い方が辞書に記載されてきたものを取り上げた。

〔 問 15：全体の結果 〕

結果は次のページのグラフのとおり。（選択肢はグラフに示している。また、並び順は問 14 に合わせている。）

下線部の言い方を「気にならない」と回答した人の割合は、「家電（いえでん）」が82.8%、「映（ば）える」が81.1%、「課金する」が80.7%、「ポチる」が69.0%、「エモい」が56.7%となっている。

一方、「気になる」の割合は、「エモい」が41.7%、「ポチる」が29.2%、「課金する」が17.6%、「映（ば）える」が17.3%、「家電（いえでん）」が16.0%となっている。

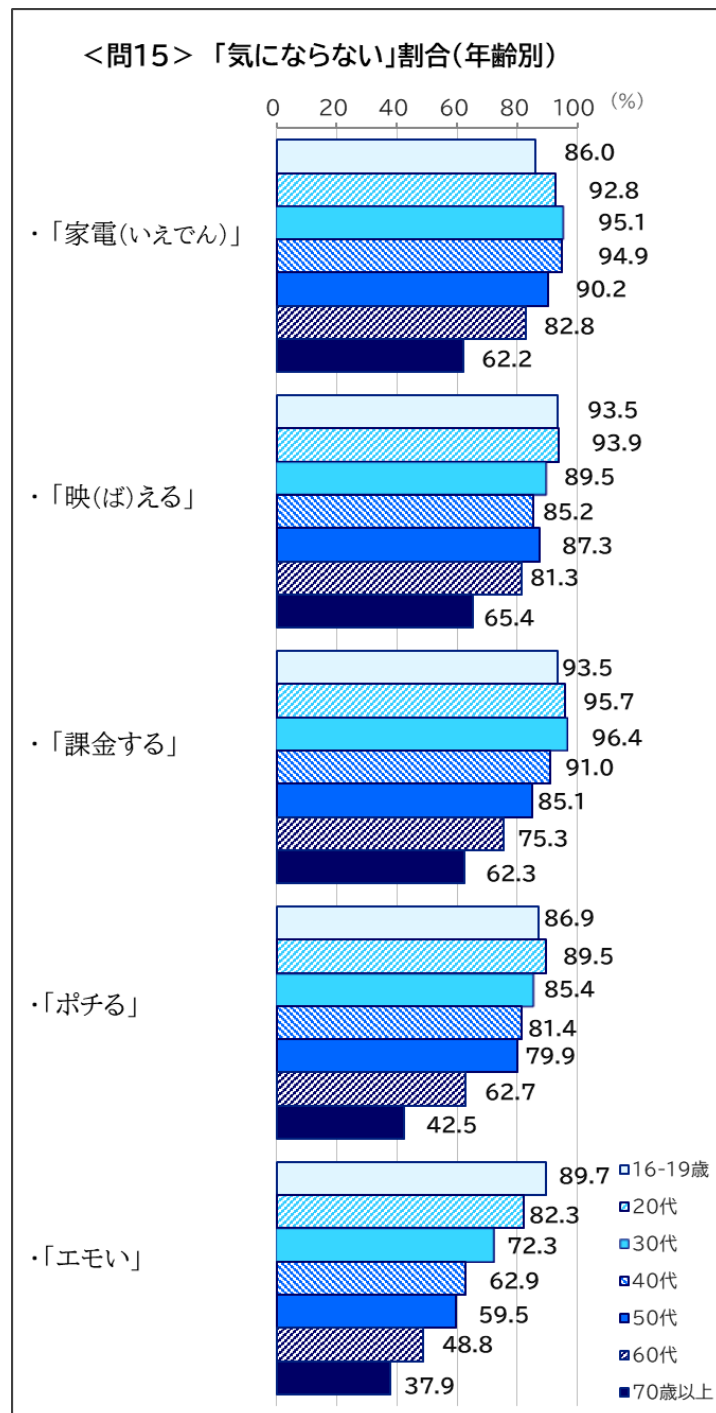


〔 問 15：年齢別の結果 〕

年齢別に「気にならない」を選択した人の割合を見ると、次のグラフのとおり。（並び順は問 14 に合わせている。）

どの言い方においても、「気にならない」を選択した人の割合が 70 歳以上で、他の年齢層より低くなっている。

また、「ポチる」「エモい」は、おおむね年齢が高いほど割合が低くなっている。



<問 16> どちらの意味だと思うか（「付かぬ事」「役不足」等）（＊ p.84）

— 「にやける」は、本来の意味とされてきたものとは異なる方が多く選択されている —

〔 問 16：質問 〕

ここに挙げた（１）～（５）の言葉の意味は、それぞれ（ア）と（イ）のどちらだと思いますか。

（一つずつ回答）

- | | | |
|---------|-------------------------------|-----------------------|
| （１）付かぬ事 | （ア）些 ^{きさい} 細でつまらないこと | （イ）それまでの話と関係のないこと |
| （２）したり顔 | （ア）得意げな様子 | （イ）知ったかぶりしている様子 |
| （３）にやける | （ア）なよなよとしている | （イ）薄笑いを浮かべている |
| （４）役不足 | （ア）本人の力量に対して役目が重すぎること | （イ）本人の力量に対して役目が軽すぎること |
| （５）潮時 | （ア）ちょうどいい時期 | （イ）ものごとの終わり |

〔 問 16：全体・（参考）過去の調査との比較 〕

結果は下の表のとおり。選択肢は、表で示している。なお、辞書等で主に本来の意味とされてきたものを太字で記した。

今回尋ねた五つの語句のうち、(3)「にやける」は、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる方が多く選択されるという結果となっている。一方、(2)「したり顔」は、辞書等で本来の意味とされてきたものの方が、そうでないものより多く選択されている。

また、調査方法が変わったため、令和元（2019）年度以前の調査結果については、今回（令和6年度）の調査結果との比較に注意が必要だが、過去の調査結果を参考値として表に示す。

〈 問 16 どちらの意味だと思うか 〉（数字は％）

(1)	付かぬ事 例：付かぬ事をうかがいますが	令和6 (2024)年度
	(ア) 些 ^{きさい} 細でつまらないこと	41.6
	(イ) それまでの話と関係のないこと	45.6
	(ア) と (イ) の両方	9.8
	(ア) や (イ) とは、全く別の意味	2.3
	無回答	0.8
(2)	したり顔 例：したり顔で説明する	令和6 (2024)年度
	(ア) 得意げな様子	64.5
	(イ) 知ったかぶりしている様子	25.1
	(ア) と (イ) の両方	8.2
	(ア) や (イ) とは、全く別の意味	1.1
	無回答	1.1

〈 問 16 どちらの意味だと思うか（続き） 〉（数字は％）

(3)	にやける 例：彼はいつもにやけている	令和 6 (2024) 年度	平成 23 (2011) 年度				
	(ア) なよなよとしている	10.5	14.7				
	(イ) 薄笑いを浮かべている	81.9	76.5				
	(ア) と (イ) の両方	4.3	3.0				
	(ア) や (イ) とは、全く別の意味	2.4	3.0				
	無回答	0.9					
	分からない					2.8	
(4)	役不足 例：彼には役不足の仕事だ	令和 6 (2024) 年度	平成 24 (2012) 年度	平成 18 (2006) 年度	平成 14 (2002) 年度		
	(ア) 本人の力量に対して役目が重すぎること	48.9	51.0	50.3	62.8		
	(イ) 本人の力量に対して役目が軽すぎること	45.1	41.6	40.3	27.6		
	(ア) と (イ) の両方	4.5	2.5	2.9	2.8		
	(ア) や (イ) とは、全く別の意味	0.9	1.6	0.3	1.8		
	無回答	0.7					
	分からない					3.4	6.2
(5)	潮時 例：そろそろ潮時だ	令和 6 (2024) 年度	平成 24 (2012) 年度				
	(ア) ちょうどいい時期	41.9	60.0				
	(イ) ものごとの終わり	46.7	36.1				
	(ア) と (イ) の両方	10.2	2.5				
	(ア) や (イ) とは、全く別の意味	0.7	0.4				
	無回答	0.5					
	分からない					1.0	

* 調査方法の変更のため、令和元（2019）年度以前の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要。

〔 問 16：年齢別の結果 〕

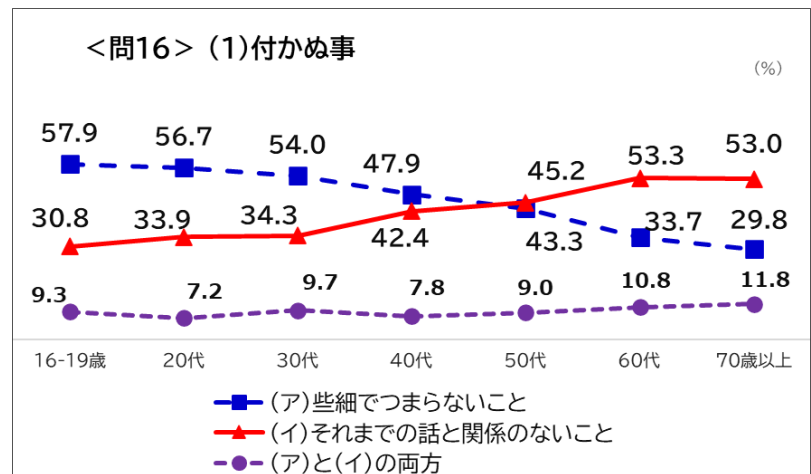
(1) ～ (5) について年齢別に見ると、次のグラフのとおり。

※ 辞書等で主に本来の意味とされてきたものを実線（—▲—）で表示した。

(1) 付かぬ事

60 代以上で、辞書等で本来の意味とされてきた（イ）「それまでの話と関係のないこと」を選択した人の割合が、本来の意味とされてきたものとは異なる（ア）「些細でつまらないこと」を上回っている。

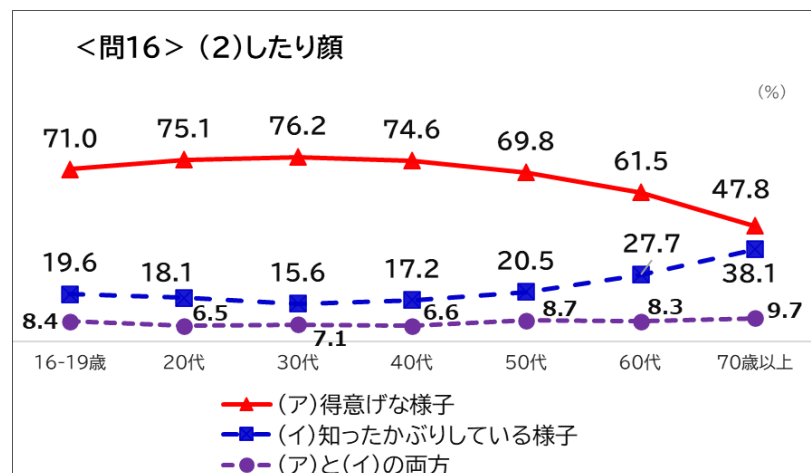
一方、30 代以下で、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる（ア）「些細でつまらないこと」の割合の方が高くなっている。



(2) したり顔

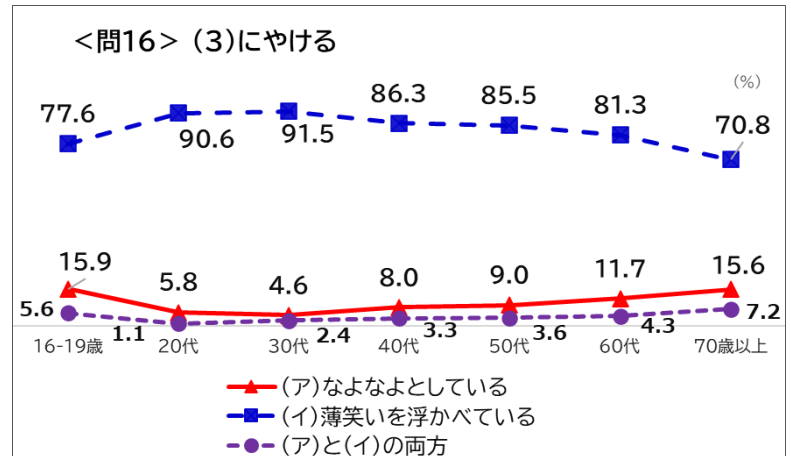
全ての年齢層で、辞書等で本来の意味とされてきた（ア）「得意げな様子」を選択した人の割合が、本来の意味とされてきたものとは異なる（イ）「知ったかぶりをしている様子」を上回っている。

本来の意味とされてきたものとは異なる（イ）「知ったかぶりをしている様子」を選択した人の割合は70 歳以上で最も高く 38.1%となっている。



(3) にやける

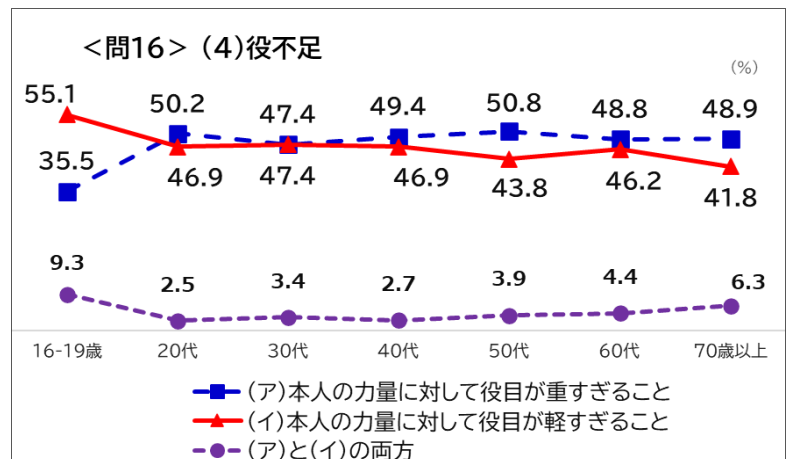
全ての年齢層で、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる(イ)「薄笑いを浮かべている」を選択した人の割合が、本来の意味とされてきた(ア)「なよなよとしている」を50ポイント以上、上回っている。



(4) 役不足

16～19 歳を除き、ほとんどの年齢層で、辞書等で本来の意味とされてきた(イ)「本人の力量に対して役目が軽すぎること」を選択した人の割合と、本来の意味とされてきたものとは異なる(ア)「本人の力量に対して役目が重すぎること」の割合との差が小さい傾向にある。

16～19 歳では、本来の意味とされてきた(イ)「本人の力量に対して役目が軽すぎること」の割合の方が高くなっている。



(5) 潮時

20～60 代で、辞書等で本来の意味とされてきたものとは異なる(イ)「ものごとの終わり」を選択した人の割合が、本来の意味とされてきた(ア)「ちょうどいい時期」を上回っている。

